

千葉県八千代市

椿山遺跡 a 地点

- 倉庫建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

2023

豊田はる

D H L e コマースジャパン株式会社
八千代市教育委員会

千葉県八千代市
椿山遺跡 a 地点

- 倉庫建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -



八千代市の位置



椿山遺跡の位置
(国土地理院発行 5万分の1 地形図に加筆・編集)

2023

豊田はる

D H L e コマースジャパン株式会社
八千代市教育委員会

凡　例

1. 本書は、八千代市教育委員会が令和4年度民間開発等埋蔵文化財発掘調査事業として実施した発掘調査及び株式会社地域文化財研究所が実施した発掘調査の報告書である。報告書作成作業は令和5年度事業として行った。
2. 本書に収録した発掘調査は、物流倉庫建設に伴うもので、豊田はる、DHL e コマースジャパン株式会社の委託を受けて実施した。
3. 遺跡名は、椿山遺跡、所在地は千葉県八千代市神久保136-1ほかである。
4. 調査及び整理は、以下のとおり実施した。

確認調査 椿山遺跡 a 地点として実施した。

期間 令和3年10月14日～10月29日 面積 278m²/3100m²

第1次本調査（調査主体：株式会社地域文化財研究所）

期間 令和4年4月13日～令和4年4月21日 面積 570m²

第2次本調査（調査主体：八千代市教育委員会）

期間 令和4年8月1日～令和4年10月31日 面積 1900m²

本整理事期間 令和5年5月15日～令和5年9月29日

5. 遺構No.は、数字と記号（アルファベット）の組み合わせで標記した。数字と記号は基本的に調査現場で付したものを使っている。記号は以下のとおりである。

土坑・地下式坑 D ピット P 溝跡 M 土壘 S A

6. 遺構・遺物の縮尺は、原則として下記のとおりである。別途縮尺が付されている場合はそちらに従うこととする。

【遺構】土坑・地下式坑・ピット1/60 土壘・溝跡 1/300

【遺物】土器・陶磁器・石製品・鉄製品1/3 繩文土器・弥生土器1/2 錢貨1/1

7. 遺構実測中のKはカクランを、遺物実測図中の実測図中の中軸線の両脇の空きは、復元実測を表す。また、遺構配置図中、遺構の密集により煩雑になるため、一部の遺構番号の記載を省略している。

6. 参考文献は第3章末にある。

7. 出土した遺物のほか、写真・図版等の調査資料は、第1次本調査のものも含め、八千代市教育委員会が保管している。

8. 本書の図版作成は、調査補助員 伊藤衣莉加・小弓場直子・田中直子・平原祐子、調査員 菊池健一と宮下聰史が行い、編集・執筆は宮下が担当した。

9. 本書の作成に当たり、下記の機関・諸氏にご協力いただいた。記して謝辞に代えたい。（順不同・敬称略）

道上 文、遠山 誠一、外山 信司、間宮 政光、神野 信、先崎 美佐子

DHLサプライチェーン株式会社、EQT Exeter Japan 株式会社、佐藤工業株式会社、

千葉測量企画株式会社

本文目次

凡例	第3節 椿山遺跡の概要.....	2
目次	第2章 検出された遺構と遺物	
挿図目次	第1節 中世以前.....	9
写真図版目次	第2節 中世.....	11
第1章 調査経過及び概要	第3章 成果と課題.....	43
第1節 調査に至る経緯.....	写真図版.....	45
第2節 調査の概要.....	報告書抄録	

挿図目次

第1図 椿山遺跡と周辺の遺跡.....	3
第2図 椿山遺跡調査地点.....	3
第3図 椿山遺跡a地点遺構配置図.....	4
第4図 椿山遺跡a地点測量図.....	5
第5図 中世以前出土遺物.....	10
第6図 S A 0 1 · S A 0 2 · M 0 1 · M 0 2 · M 0 3 及びトレンチ配置図.....	12
第7図 T 1 · T 2 · T 3 土層断面図.....	13
第8図 M 0 3 出土遺物.....	14
第9図 トレンチ及びM 0 1 出土遺物.....	16
第10図 S A 0 3 · M 0 4 · M 0 5 · M 0 6 遺構・遺物.....	16
第11図 D 0 1 ~ D 0 5 · D 1 8	18
第12図 D 0 6 ~ D 0 8 · D 1 1 · D 1 2 · D 1 7 · D 2 3	20
第13図 D 0 9 · D 1 0 · D 1 3 · D 1 4 · D 2 0 ~ D 2 2	21

第14図 D 2 5 · D 2 6 · D 3 0 · P 0 1 ~ P 1 2 · P 2 2 ~ P 2 6 · P 2 8	23
第15図 D 0 1 · D 0 3 · D 0 8 ~ D 1 0 出土遺物.....	25
第16図 D 1 4 · D 2 1 · D 2 5 · D 2 6 出土遺物.....	26
第17図 D 1 5 · D 1 6 · D 1 9 · D 3 1 · D 4 0 · D 4 4 · D 4 5 · M 0 8	29
第18図 D 2 4 · P 1 3 ~ P 2 1 · D 4 6 · D 2 9	30
第19図 D 1 5 · D 1 9 · D 2 4 出土遺物.....	31
第20図 D 2 7 · D 2 8 · D 4 1 · M 0 7	34
第21図 D 2 7 · D 4 1 · M 0 7 出土遺物.....	35
第22図 調査区西側高台遺構群（西側）.....	37
第23図 調査区西側高台遺構群（東側）.....	38
第24図 調査区西側高台遺構群出土遺物.....	39
第25図 遺構外出土遺物.....	41

写真図版目次

図版1 第1次本調査遺構検出状況等（1）
図版2 第1次本調査遺構検出状況等（2）
図版3 第2次本調査遺構完掘状況等（1）
図版4 第2次本調査遺構完掘状況等（2）
図版5 第2次本調査遺構完掘状況等（3）
図版6 第2次本調査遺構完掘状況等（4）
図版7 第2次本調査遺構完掘状況等（5）
図版8 第2次本調査遺構完掘状況等（6）
図版9 中世以前出土遺物
図版10 M 0 3 出土遺物

図版11 トレンチ・M 0 1 · 0 3 · 0 4 · P 1 7 出土遺物
図版12 D 0 1 · 0 3 · 0 8 ~ 1 0 出土遺物
図版13 D 1 4 · 2 1 · 2 5 出土遺物
図版14 D 2 6 · 2 9 出土遺物
図版15 D 1 5 · 1 9 · 2 4 · 4 1 出土遺物
図版16 D 2 7 · 4 1 · M 0 7 出土遺物
図版17 遺構外出土遺物
図版18 西側高台遺構群出土遺物・D 0 5 人骨
図版19 D 2 1 出土人骨

第1章 調査経過及び概要

第1節 調査に至る経緯

令和3年9月7日付で、DHLサプライチェーン株式会社 代表取締役社長 ヨンファ・ゴー（以下DHL）、DHLeコマースジャパン株式会社 代表取締役社長 マイヤー・セレスティン・イグナツ（以下DHLe）から神久保字椿山136-1ほかの倉庫業の倉庫建設に係る「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の依頼が提出された。確認地は、一部が周知の遺跡である椿山遺跡の範囲内であるため、八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）は、「周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、文化財保護法（以下「法」という。）第93条に基づく届出が必要」であることと、「その取扱いについて協議したい」旨をそれぞれ回答し、包蔵地内3100m²について取扱いに係る協議を行った。その結果、工事を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同年9月10日付でDHL、DHLeから土木工事の届が提出され、市教委は10月14日に確認調査を開始した。

確認調査 確認調査は、令和3年度市内遺跡発掘調査事業として国庫及び県費の補助を受けて行った。対象面積3100m²のうち278m²を調査した。その結果、中近世構、土壙、地下式坑、土坑、堅穴建物跡等を検出した。

本調査 確認調査の結果から2200m²について協議範囲とし、本調査実施に向けて協議を重ねた。協議の結果300m²を現状保存とし、残り1900m²を記録保存の範囲とした。市教委は令和3年12月20日付で調査の見積りを事業者に提示した。事業の工期との関係上、着手が急がれる協議範囲の東側に所在する土壙部分については、市教委に先行して民間調査組織が土壙部分の測量及びトレンチによる断ち割り調査を行い、それ以外についての調査と全ての整理を市教委が行うことになった。複数の民間調査組織より積算書及び調査計画書を求め、事業者と協議を重ね、適正な調査実施が可能と判断した調査組織の中から株式会社地域文化財研究所（以下地文研）が選定された。令和3年2月7日付でDHLe、地文研、市教委の間で発掘調査の実施に関する協定書を締結し、令和4年3月7日付で法第92条に基づく発掘の届出が提出された。

発掘調査に先行して2月17日より測量を行い、令和4年4月13日から令和4年4月21日にかけて土壙の断ち割り調査が行われた。

市教委調査分については令和4年7月4日付で八千代市長（以下「市」という。）に調査依頼書が提出され、市は同年7月6日付でこれを受託した。令和4年7月8日付で市と事業者と土地所有者間で本調査の委託契約を締結し、同年8月1日に市教委が本調査を開始した。

第2節 調査の概要

本調査は、1900m²を対象として行った。中世以降の台地整形等による人為的な地形であることから、掘削前に先立って地形測量を行った。尚、立木の伐採時に乗り入れた重機の影響等で、地文研の測量時点と市教委の測量時点では多少変わっていた。概ね一致するところはあるが、双方の測量結果で重複する部分で一部齟齬が生じたため、全体の測量図作成において、重複する部分については地形改変前に測量している地文研の成果を優先して作成している。測量後は、表土については重機により掘削し、適宜写真撮影と図面作成、トータルステーションによって記録をとりながら完掘を目指した。また、地下式坑の覆土等、一部重機による掘削を行った。

調査経過は、地文研が2月17日から18日に調査前現況写真の撮影、土壙及びその周辺の地形測量を行つ

た。その後、事業者により立木の伐採が行われ、終了後の4月13日から21日にかけて土壘の断ち割り調査が行われた。13日に機材搬入、調査区全景の写真撮影を行い、重機による掘削を開始した。表土の掘削が終了したところから精査を行い、検出された遺構については掘り下げを行った。トータルステーションによる遺物の取り上げ、図面作成等を行い、随時写真撮影等により記録を行った。21日に機材撤収を行い、調査を終了した。市教委による調査は8月1日より開始した。8月1日機材搬入、環境整備、調査前状況写真撮影。8月2日から5日にかけて地形測量を行い、8月8日から23日にかけて重機による表土掘削。8月17日以降、表土掘削が終了した箇所から遺構確定を行い、土坑等の遺構調査に移行した。トータルステーションによる遺物取り上げ及び平面図作成等を並行して行い、随時写真撮影等により記録を行った。個別の遺構調査終了後に全体写真撮影を行い、10月31日地下式坑等の危険箇所の埋戻しと機材撤収を行い、調査を終了した。

第3節 椿山遺跡の概要

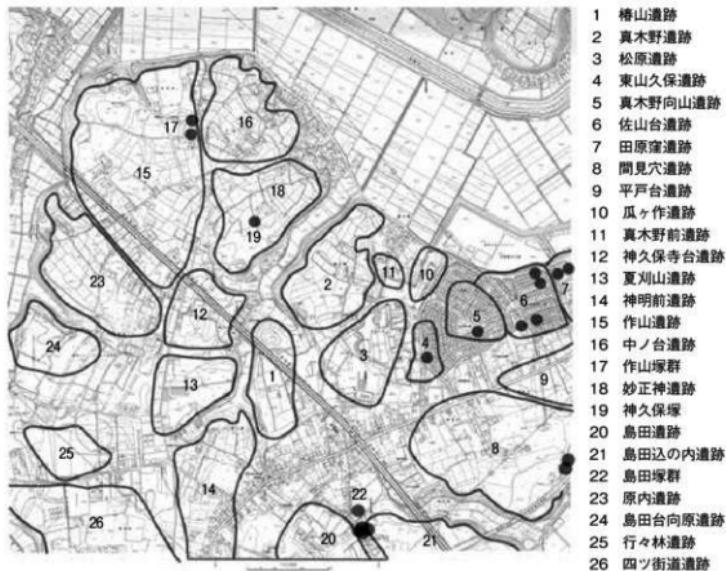
遺跡の立地 椿山遺跡は、市域北部、神久保地区にある。東西を神崎川から延びる谷津に挟まれた標高20mから23mの舌状台地上に位置する。調査地点は遺跡の北端近くに位置し、東西を谷津に挟まれた舌状台地先端付近の平坦面、標高20m前後に立地する。谷津との比高は11mほどあるが、調査区東側の谷津の最奥部一帯は、埋め立て、資材置場、遊行施設とその駐車場として使用されている。また、調査区南側は、資材置場への通路として削平を受けているが、今回行われた土壘の調査により、どこまで深く入り込むかは不明だが、調査区南側にも谷が回り込んでいる可能性があることがわかった。

過去に飲食店の建設に伴う試掘調査が行われたのみで、今回の調査が初めての本格的な調査となる。今回の調査区部分は、明らかに人工的な地形で、大規模な造成が行われたことをうかがわせる場所であった。調査区外へも土壘や溝、台地整形と考えられる地形が地表面の観察から見て取れ、舌状台地先端に向かって中世の遺構が展開していくことが予想される。また、調査区北側の山林の中には、かつて椿山神社があつたと伝えられ、詳細は不明ながら椿姫と呼ばれる人物の伝承が地元に伝えられている。

周辺の遺跡 谷津を挟んだ東側には真木野遺跡、松原遺跡が所在し、さらにその東の佐山地区・平戸地区には東山久保遺跡、佐山台遺跡、田原塙遺跡や佐山貝塚、間見穴遺跡、平戸台遺跡、道地遺跡等の遺跡が所在している。現在大学町と呼ばれている一帯の開発に伴う調査で、松原遺跡・東山久保遺跡、佐山台遺跡、田原塙遺跡が調査され、縄文時代から奈良・平安時代までの堅穴住居の他、方形周溝状造構や田原塙遺跡では弥生時代の環濠も見つかっている。間見穴遺跡、道地遺跡も県道の建設に伴う調査が行われており、旧石器時代の石器集中地点や縄文時代から奈良・平安時代にかけての堅穴建物跡の他、豊富な副葬品を伴う古墳や、中世の土坑墓、火葬施設なども見つかっている。

翻って西側には谷津を挟んで神久保寺台遺跡、夏刈山遺跡、神明前遺跡が所在する。神久保寺台遺跡では城郭に見られるような大規模な堀や土壘等が見つかっている。北側の神崎川とその支流である鈴身川、北谷津に囲まれた小池の台地上には作山遺跡、中ノ台遺跡、作山塙群、妙正神遺跡、神久保塙が所在する。作山遺跡では中世の土坑墓や火葬墓、溝等を検出している。また、小池の台地から鈴身川の対岸となる船橋市側には小野田城跡も所在しており、神崎川沿いに比較的中世・戦国期の遺跡が確認できる地域である。

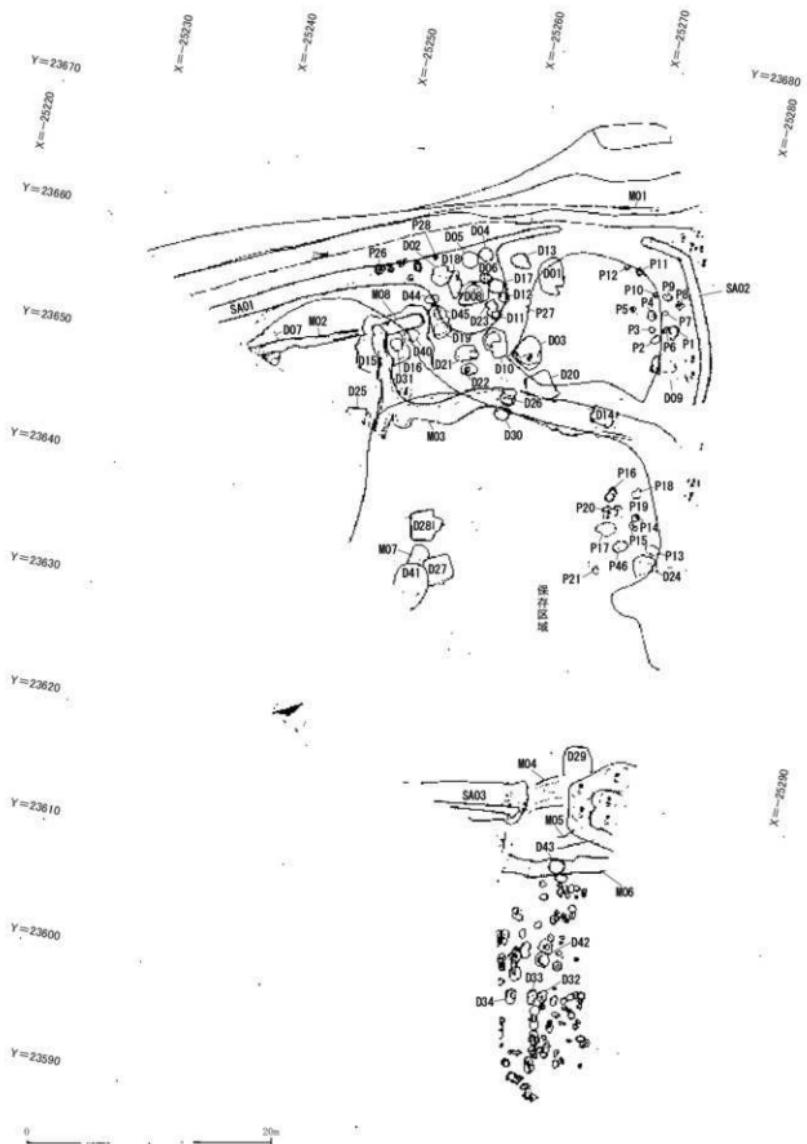
南は島田遺跡や島田込の内遺跡、島田塙群等が所在し、島田込の内遺跡では、県道の建設の際の調査では、古墳時代と奈良・平安時代の集落が調査され、物流倉庫建設に伴う調査では、奈良・平安時代の集落を中心に、旧石器時代の石器集中地点や縄文時代の堅穴建物跡、炉穴等も見つかっている。



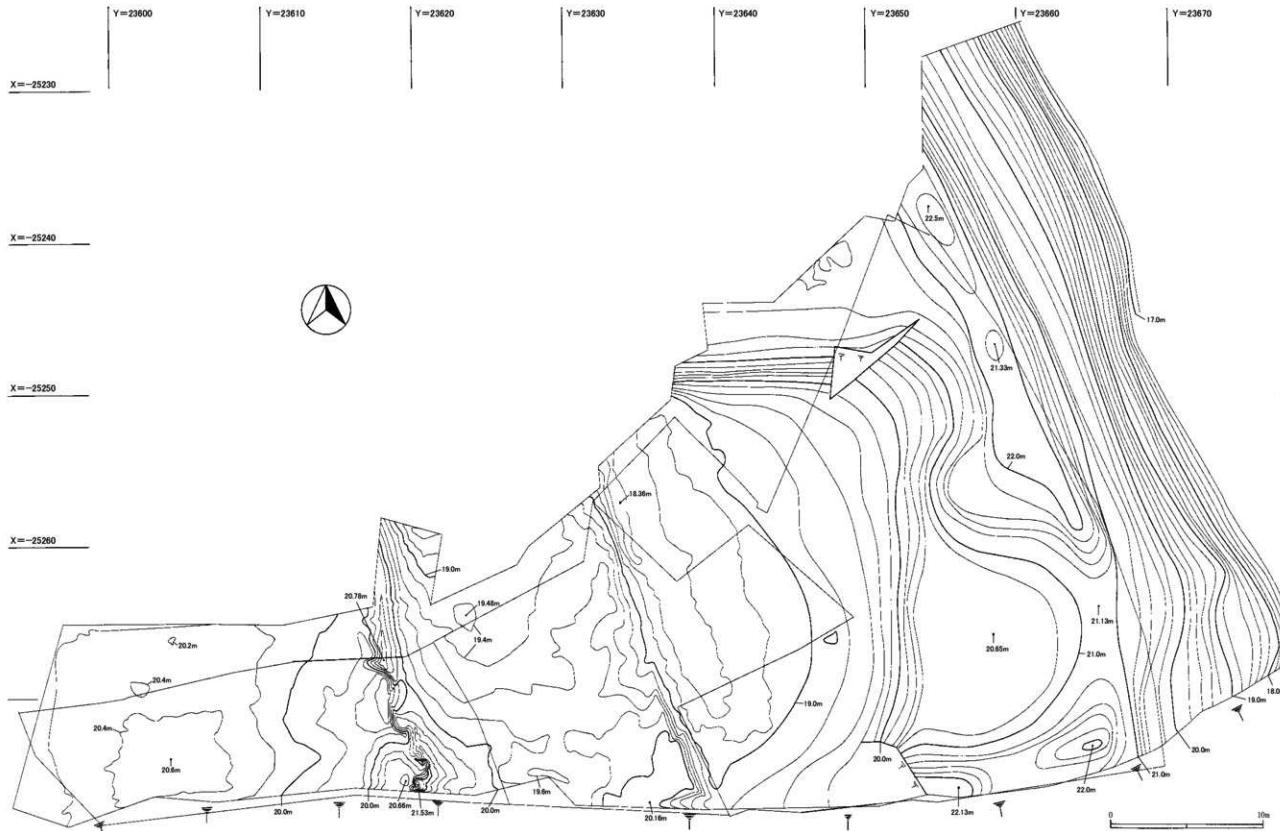
第1図 椿山遺跡周辺の遺跡



第2図 椿山遺跡調査地点



第3図 椿山遺跡a地点遺構配置図



第4図 椿山遺跡a地点地形測量図

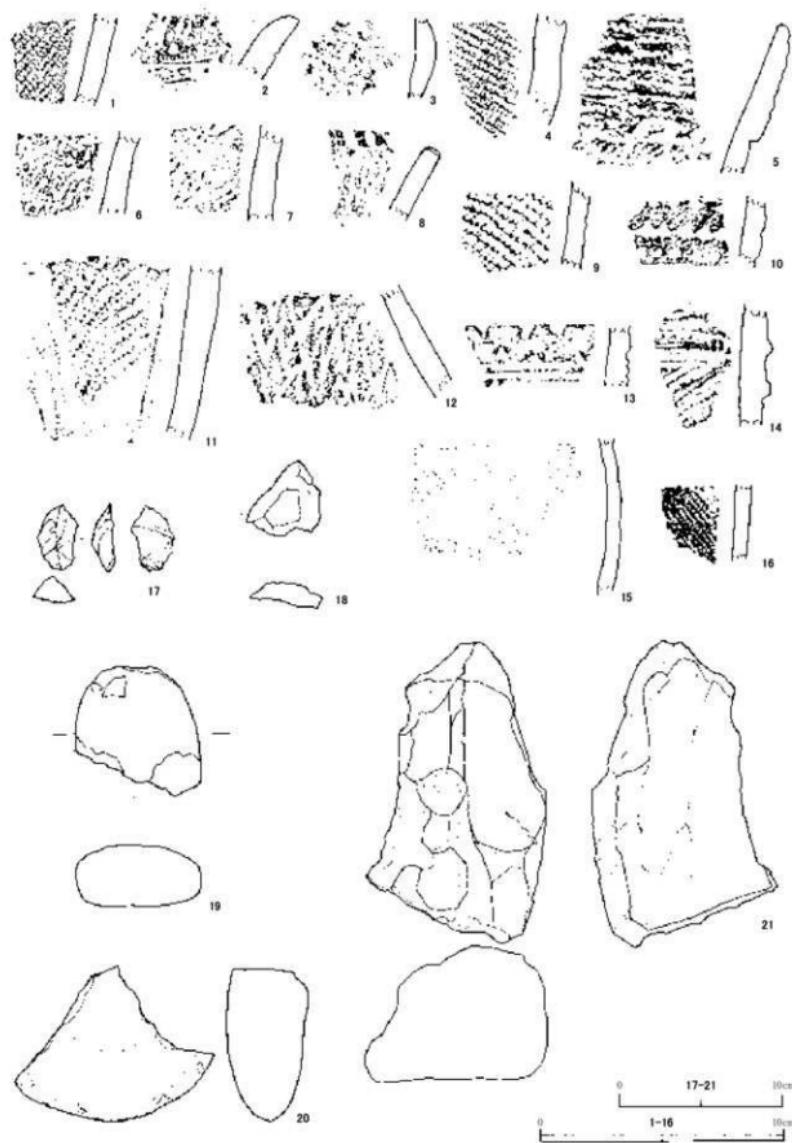
第2章 検出された遺構と遺物

第1節 中世以前

今回の調査において、明確に中世以前と考えられる遺構は検出されなかった。ただし、確認面及び遺構覆土中から縄文時代や弥生時代の遺物を中心に、図示はしなかったが奈良・平安時代と考えられる遺物も見つかっている。

中世以前遺物観察表

國版番号 出土遺構	器種等	部位	計測値(cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1 縄文土器 深鉢		体部	—	—	—	淡橙褐色	長石、石英	外面：縄文施文。内面：ナデ調整
2 縄文土器 深鉢		口縁部	—	—	—	外面：黒褐色 内面：淡暗褐色	長石、石英	口辺部に縦方向のキザミと竹管状工具による刺突。体部との境界に横方向の沈線を施す。
3 縄文土器		体部	—	—	—	暗褐色	長石、石英	外面は剥落しているか。織維状の痕跡。内面粗いミガキ調整。
4 縄文土器		体部	—	—	—	暗褐色	長石、石英 赤色鉱物	表面縄文施文。縄文施文後太い沈線で区画。
5 縄文土器		体部	—	—	—	外：暗褐色 内：黒褐色	長石、石英	表面縄文施文。内面粗いミガキ
6 D09 縄文土器		体部	—	—	—	外：暗淡褐色 内：黒褐色	長石、石英	表面縄文施文。
7 D20 縄文土器		体部	—	—	—	淡暗褐色	長石、石英 赤色鉱物	表面縄文施文 内面ヘラナデ
8 M01 縄文土器		口縁部	—	—	—	外：黒褐色 内：淡褐色	長石、石英	口唇部キザミ。外面貝殻腹縁文か。
9 M01 縄文土器		体部	—	—	—	外：灰褐色 内：ぶい橙	長石、石英	表面縄文施文。
10 D04 縄文土器		体部	—	—	—	外：淡黃褐色 内：暗灰色	長石、石英	棒状工具による刺突を連続している。
11 D16 縄文土器		体部	—	—	—	外：暗橙色 内：暗淡褐色	長石、石英 赤色・黒色鉱物	表面縄文施文。縦方向の沈線有り。内面粗いミガキ
12 D26 縄文土器		体部	—	—	—	淡暗褐色	長石、石英	貝殻腹縁文か。
13 D19 縄文土器		体部	—	—	—	暗橙色	長石、石英 雲母	棒状工具による刺突。横方向の沈線有り。
14 D15 縄文土器		体部	—	—	—	暗淡褐色	長石、石英	胎土の粒子粗い。棒状工具による押引きと疊帶による区画あり。
15 確認面 縄文土器		体部	—	—	—	暗褐色	長石、石英	外面：縄文施文後擦り消し。斜め方向の条線が多数入る。内面ミガキ
16 D41 弥生土器		体部	—	—	—	外面：暗褐色 内面：淡橙褐色	長石、石英	外面：附加条縄文 内面：ナデ
17 確認面 石器 剝片			4.1 (最大長)	2.4 (最大幅)	1.3 (最大厚)	オリーブ色	珪質頁岩	
18 P9 石器 剝片			4.8 (最大長)	4.3 (最大幅)	1.2 (最大厚)	灰オリーブ色	チャート	
19 P101 石器 叩き石			8.0 (最大長)	7.6 (最大幅)	3.8 (最大厚)	明オリーブ灰色		側面に研磨痕。
20 D3 石器 叩き石			12.5 (最大長)	10.0 (最大幅)	5.0 (最大厚)	オリーブ灰色		斧刃状の形状。広い面は研磨痕跡。側面の細い部分には叩打痕残る。
21 P51 石器 石皿			19.2 (最大長)	11.1 (最大幅)	8.4 (最大厚)	灰白色		表面に研磨痕跡。裏面には2ヶ所の窪みが残る。



第5図 中世以前出土遺物

第2節 中世

今回の調査において、土壙3基、溝9条、地下式坑12基、竪穴状遺構2基、土坑23基、ピット124基を検出した。現況の地形や遺構の検出状況等から、調査区全体が、中世に大規模な造成が為されていると考えられる。調査区東端の土壙と、それに伴う溝については、地文研によりトレンチによる調査を行った。その上で、市教委調査時に土壙下の遺構確認のため掘り下げを行った。その結果、調査区東側の高台上に所在する遺構は、ほとんどが土壙（S A 0 1）の下に所在していることがわかった。尚、ピット・土坑等、遺構の計測値について、文章中に記載のないものは表にまとめている。

S A 0 1

S A 0 1は調査区東端、台地縁辺に沿って南北方向に構築された土壙である。土壙の東側は谷を臨む急傾斜地である。南側はS A 0 2の手前で途切れ、北側は調査区外へと延びる。旧表土上に、ローム土を主体とする黄褐色土を芯に積み上げられている。基底部幅2.2m～3.4m、旧表土からの高さ0.9mを計測する。

S A 0 2

S A 0 2は調査区南東端に位置し、南側は削平により失われている。基底部幅1.5m以上、旧表土からの高さ0.8mを計測する。土層の観察から、地山が南へ傾斜しており、S A 0 1同様に、外側は谷を臨む傾斜地であったと考えられる。東側は台地縁で北側へと向かう様子も見られるが、S A 0 1との接続は確認できない。現在確認できる西端で南へ向けL字形に折れるか、あるいは西進していたと見られる。土壙西側の大規模に掘り込みが行われた区画の南端に、僅かながら土壙状の高まりがみられるが、明確に土壙として捉えることはできなかった。また、S A 0 1に比べ、構築土にローム粒、ロームブロックの混入が顕著である。S A 0 1では見られない構築土を使用しており、S A 0 1と比べ高く大型に築くために使用土を変えていた可能性もある。

M 0 1

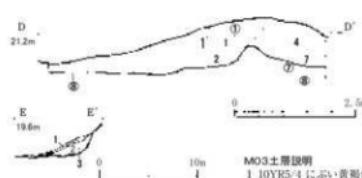
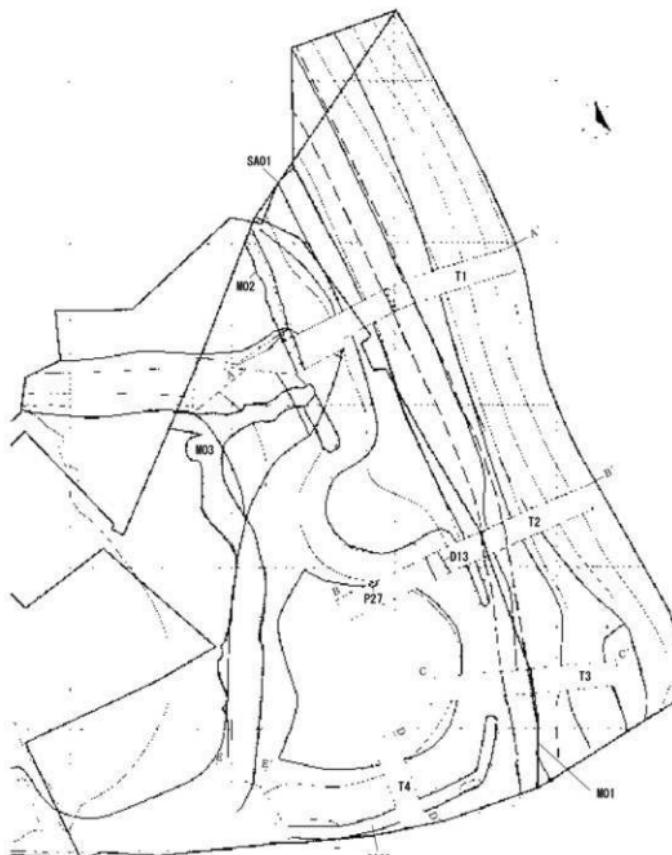
M 0 1はS A 0 1の東側、土壙直下の谷津へと下がる急傾斜地に掘られた溝である。上端幅1.6m、土壙側を基準とした深さは1.1m、逆台形状の断面を呈する。土壙に沿って南北方向に延び、南側はS A 0 2の北側を通過して南側の台地縁まで続き、北側は土壙とともに調査区外へと延びる。

M 0 2

M 0 2はS A 0 1の西側に所在する溝で、南側はD 1 5、D 1 6とした掘り込み部分で途切れ、北側はD 0 7を切り調査区外へと延びていく。上端幅1.0m、深さ0.25m、掘り込みは逆台形状の比較的浅い溝である。

M 0 3

M 0 3は東側高台区画の北側をえぐり込むように掘り込まれた中にM 0 8を切って掘られた溝である。D 1 5部分から西へ向かって延びた後、掘り込区画の東側高台区画との境に沿って南北に分かれて延びる。上端幅1.2m、深さ0.5m、逆台形状を呈する溝であるが、南北方向に延びる部分については、溝の西側は緩やかな立ち上がりであり、台地整形に伴う掘り込みの跡である可能性もある。



第6図 SA01・SA02・MO1～MO3及びトレンチ配置図



第7図 T1・T2・T3土層断面図

基本地盤土層図
① 黄褐色土 10YR3.3 黄土：相混入有し、稍まり、
RHS4.5

② 黄褐色土 10YR3.4 ローム粘多量含む、相混入有し、
RHS4.5

③ 黄褐色土・粘土層 10YR3.4 ローム粘多量含む、相混入、
RHS4.5

④ 黄褐色土 10YR3.3 ローム粘多量含む、相混入有し、
RHS4.5

⑤ 黄褐色土 10YR4.6 ロームブロック 小1~2mm断面に含む、
RHS4.5

⑥ 黄褐色土 10YR5.4 ロームブロック 小1~3mm
粘土ブロック 小1~2mm断面に含む、稍まり、稍性有。

⑦ 黄褐色土 10YR3.1 黑灰土：ローム粘少量含む、
RHS4.5

⑧ 黄褐色土 10YR3.3 粘特厚、ローム粘少量含む、
RHS4.5

⑨ 黄褐色土 10YR5.6 ノットロード層、白色土・黑色土
相混入有し、相混入有。

⑩ 黄褐色土 10YR5.8 ノットロード層、白色土・黑色土
相混入有し、相混入有。

⑪ 黄褐色土 10YR5.8 ノットロード層、白色土・黑色土
相混入有し、相混入有。

⑫ 黄褐色土 10YR5.8 ノットロード層、白色土・黑色土
相混入有し、相混入有。

⑬ 黄褐色土 10YR5.8 ノットロード層、白色土・黑色土
相混入有し、相混入有。

⑭ 黄褐色土 10YR5.8 ノットロード層、白色土・黑色土
相混入有し、相混入有。

⑮ 黄褐色土 10YR5.8 ノットロード層、白色土・黑色土
相混入有し、相混入有。

⑯ 黄褐色土 10YR5.8 ノットロード層、白色土・黑色土
相混入有し、相混入有。

M01+層説明
1 黄褐色土 10YR4.6 ローム粘多量含む、相混入、相混入有し、相混入有、相性有。

P27+層説明
A 黄褐色土 10YR3.3 ローム粘多量含む、相混入、相混入、相混入、相性有。

口 黄褐色土 10YR4.6 ローム粘多量含む、相混入、相性有。

M02+層説明
A 黄褐色土 10YR3.4 ローム粘多量含む、相混入、相混入、相性有。

口 黄褐色土 10YR3.4 ローム粘多量含む、相混入、相性有。

S01+・S02+層説明
1 黒色土 10YR4.6 ローム粘多量含む、相混入、相混入有し、相性有。

口 黑灰色土 10YR4.6 ローム粘多量含む、相混入、相性有。

2 黄褐色土 10YR3.3 ローム粘多量含む、相混入、相混入有し、相性有。

口 黄褐色土 10YR3.3 ローム粘多量含む、相混入、相性有。

3 黑灰色土 10YR4.6 ローム粘多量含む、相混入、相混入有し、相性有。

口 黑灰色土 10YR4.6 ローム粘多量含む、相混入、相性有。

4 黄褐色土 10YR5.6 ローム粘多量含む、相少有し、相性有。

口 黄褐色土 10YR5.6 ローム粘多量含む、相少有し、相性有。

5 黑灰色土 10YR4.6 ローム粘多量含む、相少有し、相性有。

口 黑灰色土 10YR4.6 ローム粘多量含む、相少有し、相性有。

6 黑灰色土 10YR3.1 ローム粘多量含む、相少有し、相性有。

口 黑灰色土 10YR3.1 ローム粘多量含む、相少有し、相性有。

7 黑灰色土 10YR5.6 ローム粘、ロームブロック 小1~3mm断面に含む、
相まり、相性有。

口 黑灰色土 10YR5.6 ローム粘、ロームブロック 小1~3mm断面に含む、
相まり、相性有。



第8図 M03出土遺物

S A 0 3

S A 0 3 は調査区西側の高台区画上、中央の掘り込み区画と分けるように、南北方向に構築された土壘である。調査区境界部分で削平され、北側は調査区外へと延びる。切り株や立木等の関係で、土壘の残りが良好な箇所へトレンチを入れることはできなかったが、土層の観察から土壘が崩落している様子が見られ、現在途切れている部分についても土壘が繋がっていたと考えられる。S A 0 1・0 2 と異なり、削り残したローム層を芯として、ローム土を主体とする暗褐色土が積み上げられている。基底部幅 3m、高さは M 0 4 の堀底から 2.2m を測る。調査区外に残る土壘の観測から、さらに 1m 程度高くなる可能性がある。また、土壘より西側の土の堆積を見ると、現表土（1 層）より下については粘土や焼土、炭化物等が多量に混ざる土で西側の高台区画一帯が人為的に埋められていることがわかる。

M 0 4

M 0 4 は掘り込み区画の西端、S A 0 3 の東側に掘られた溝である。切株により、ごく一部の調査しかできなかったが、北側は調査区外へと延びる。南側も調査区外へ延びるか、又は調査区南端付近で東に折れ曲がる可能性がある。深さ 0.6m、上端幅 2.3m。溝の底部は白色粘土層を掘り込んで作られ、逆台形状の断面を呈する。

M 0 5

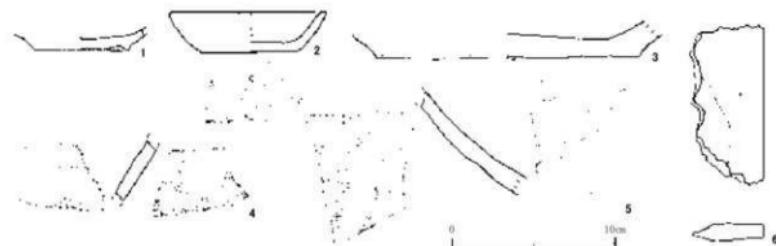
M 0 5 は S A 0 3 の西側に掘られた溝だが、南側は調査区境界で削平され、北側は、西側調査区の中程で途切れる浅い溝である。深さ 0.2m、上端幅 0.9m ですり鉢状の断面を呈する。

M 0 6

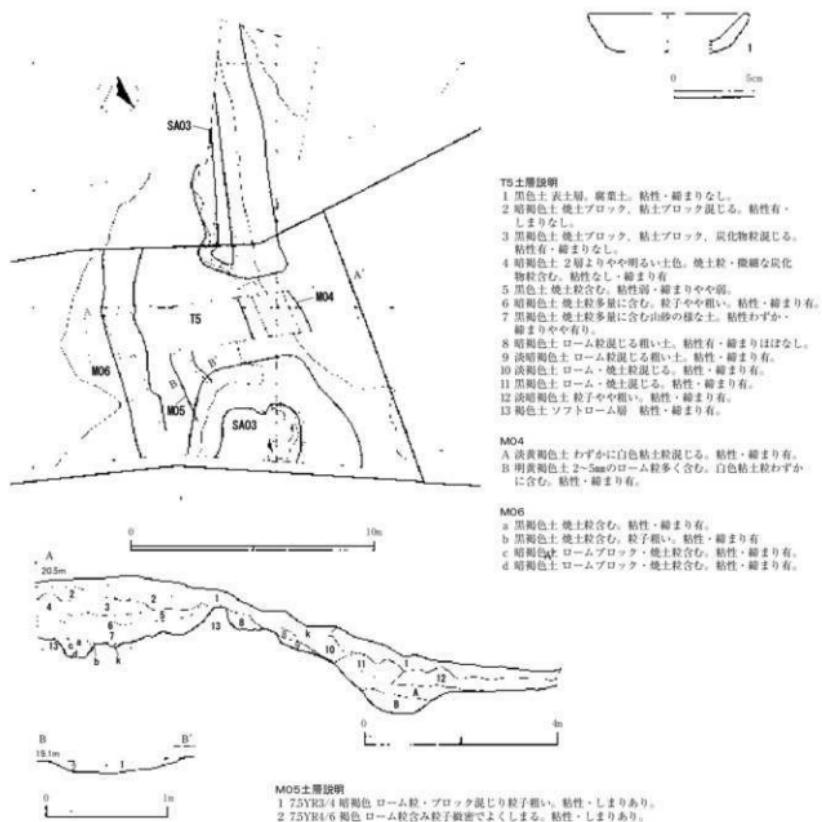
M 0 6 は S A 0 3 の西側に掘られた溝で、D 4 1 に切られる。南側は調査区境界で削平され、北側は調査区外へと延びる。深さ 0.38m、上端幅 1.3m、逆台形状の断面を呈する浅い溝で、土壘 S A 0 3 に伴う溝と考えられる。

M 0 3 出土遺物観察表

団版番号	器種等	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	陶器 小皿	口縁～底部	1.9	(12.4)	(6.6)	淡黃白色、施釉部分黄緑色	白色小窓、赤色、白色・黒色鉢物	底部系切り、ヘラナデ調整。内面の口辺部に施釉。灰釉、瀬ヨリ、美濃窓
2	磁器 茶碗	口縁～体部 (残存高)	5.0	10.8	—	白地に青色の染付		
3	磁器 皿か	底部 (残存高)	2.0	—	5.2	青緑色		底部回転ヘラ削り。高台部分には施釉せず。
4	土器 かわらけ	底部 (残存高)	1.3	—	(6.0)	灰白色	石英	
5	土器 内耳土鍋	口縁	—	—	—	外：黒色 内：暗褐色	石英、長石	ヘラナデ。外面スス付着。
6	土器 内耳土鍋	口縁～体部 (残存高)	11.4	34.6	—	外：黒色 内：暗褐色	長石、石英	ヘラナデ。外面スス付着。
7	土器 内耳土鍋	口縁	—	—	—	外：墨褐色 内：淡暗褐色	長石、石英 赤色鉢物	外面スス付着。
8	陶器 甕か	肩部 (残存高) (肩部径)	6.0 7.0	38.2	—	外：明茶褐色 内：暗緑灰色	長石、石英 黒色鉢物	常滑窓
9	陶器 鉢	体部～底部 (残存高)	—	(10.0)	—	暗オリーブ灰	長石、石英 黒色鉢物	常滑窓か
10	土器 土鍋	口縁部	—	—	—	外：灰白色 内：灰白色	長石、石英	外面スス付着。
11	土器 鉢	口縁～底部	(35.0)	12.7	12.2	外：黒褐色 内：暗褐色	長石、石英 赤色鉢物	摺り目 5 条、外面スス付着。
12	土器 釜	口縁～体部 (残存高)	10.3	13.8	—	黒色	長石、石英 雲母	ヘラナデ。釜蓋模倣か
13	石製品 砥石		5.2 (最大長)	32 (最大幅)	0.4 (最大厚)	青緑色	雲母片岩	



第9図 トレンチ及びM01出土遺物



第10図 SA03・M04～M06構造・遺物

トレンチ及びM01出土遺物観察表

団版番号 出土遺構	器種等	部位	計測値(cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1 T1	縄目・美濃 丸皿	底部	(1.5)	—	5.8	オリーブ黄色	白色粒・黒色粒微量	底面部、貫入著しい。 置付けは無軸となる。 大窓第2段階
2 T2	土器 かわらけ	口縁～底部	2.5	9.6	6.2	黄褐色	長石、石英、雲母、白色 針状物質、白色粒、黒 色粒、赤褐色粒多量	2/3存。ロクロ成形。底 部回転糸切り。 16世紀前業
3 M01	土器 亮か	体部	—	—	—	外：暗褐色 内：灰白色	長石、石英	被熱した痕跡あり
4	土師質土器 擂鉢	体部	(6.3)	—	—	外：褐色 内：黒褐色	長石・石英・白色粒・ 黒色粒多量	外側ナデ、内面掘目。
5	常滑 甕	肩部	—	—	—	外：褐灰色 内：褐灰色	長石、石英、雲母、白色針 状物質、白色粒、黒色粒、 赤褐色粒多量	外側叩き及びナデ、内 面指頭圧痕及びナデ。
6 M01	石製品 砥石		10.0 (最大長)	4.6 (最大幅)	1.1 (最大厚)	緑色	緑泥片岩	

M04出土遺物観察表

出土遺構	器種等	部位	計測値(cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土器 かわらけ	口縁～底部	2.2	(10.0)	(6.0)	黒褐色	長石、石英	

D 0 1

東側の高台上に位置し、床面は東西方法にやや長い長方形を呈する地下式坑で、土層の観察から天井全休が崩落し、その後崩落によりできた窪みを人為的に埋めたものと考えられる。遺構の形状から西側に入口があったと考えられる。遺物はかわらけ等が出土しているが、遺構廃絶の流れ込みと考えられる。

D 0 2

D 0 2を切って作られた土坑で、土層の観察から一度人為的に埋められた跡、再度掘り返されたと思われる。堆積した土や形状などから土坑墓としての利用が想定される。

D 1 8

D 0 2に切られる円形と稍円形をつなげたような土坑である。円形部分は炭化物と焼土が底面から30cm程堆積しており、炭化物中には骨片が混じる。底面から壁面の一部は被熱により赤変硬化している。

D 0 3

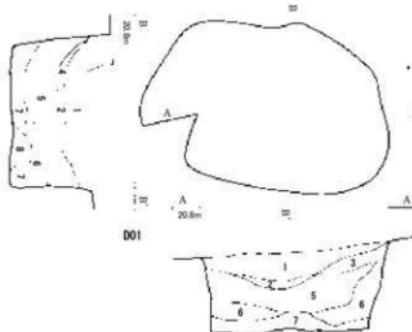
東側の高台上に位置する地下式坑で、天井は崩落している。西側に出入り口を持ち、スロープ状に掘削した縦坑の壁面がそのまま地下室出入口側の壁面となる。また、スロープの上部にステップを持つ。地下室の形状は2.0m×1.2m程の不整形な長方形で壁面は0.8m垂直に立ち上がる。天井はドーム状の形状か。

D 0 4

東側の高台状に位置する。直径1.1mほどの土坑で、人為的に埋められたと考えられる。堆積状況や形状から土坑墓と考えられる。覆土から縄文土器と土器擂鉢片が出土している。

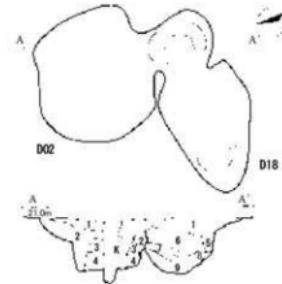
D 0 5

東側の高台上に位置する直径1.4m程の土坑で人為的な堆積が見られる。底面から人骨（歯）が出土しており、土坑墓と考えられる。いくつかの骨片とともに、下顎骨の形状に合わせるように歯が並んだ状態で出土している。



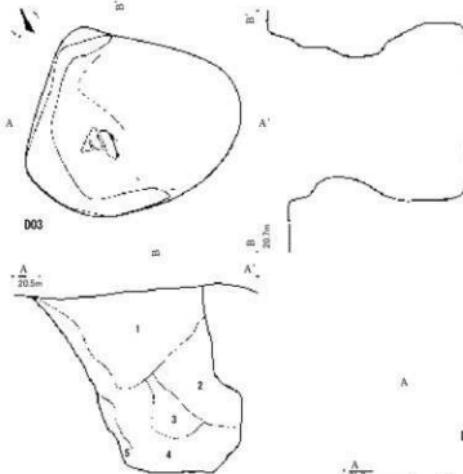
D01土層説明

- 1 10YR4/4 黄褐色 ローム小ブロックや多く含む
- 2 10YR4/2 にぶい黄褐色 明褐色土。ロームブロックわずかに含む
- 3 10YR5/6 黄褐色 ローム小ブロック多く含む、固く、しまりある
- 4 10YR3/2 黒褐色 土と岩を主体とする。やわらかくしまりない。
灰は投げ込まれたものか。
- 5 10YR5/6 黄褐色 ローム小ブロック・大ブロックのボソボソ層。
- 6 10YR4/4 黄褐色 4と同じだが、やわらかい。
- 7 10YR5/4 にぶい黄褐色 ロームブロック主体。明褐色土わずかに含む。
固くしまりある
- 8 10YR6/6 明黄褐色 ロームブロック主体、固くしまりある



D02・D18土層説明

- 1 10YR5/8 黄褐色 粘性・しまりあり、微細な地土粒と炭化物粒混じる。
- 2 75YR4/4 黄褐色 粘性・しまりあり、ロームブロック混じる
- 3 10YR5/8 黄褐色 ロームブロックと褐色土交じりの層。しまりある
が弱めやわらかい。
- 4 10YR5/8 黄褐色 ロームブロック、しまり非常に強く、粘性あり
- 5 25YR4/6 明褐色 10YR4/6 黄褐色 しまりあり、やや弱い。ロームブロックと焼土粒混じる。一部炭化で赤茶色化している。
- 6 5YR4/6 黄褐色 粘性・しまりあり、燒土粒混じる。
- 7 5YR3/6 暗赤褐色 しまりなし、粘性なし、焼土と炭化物多い。
- 8 5YR7/6 黄褐色 しまりあり、やや弱い。焼土層、多量の燒土粒に少
量の炭化物混じる
- 9 75YR2/2 黑褐色 しまりあり、やや弱い。炭化物層



D03土層説明

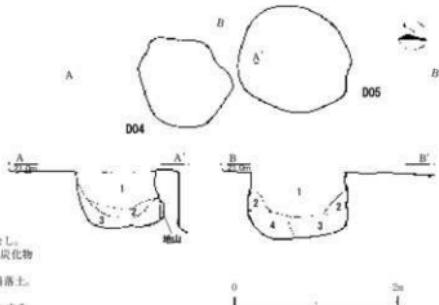
- 1 10YR4/4 黄褐色 0.2cmローム多く含む。炭化物わずかに含む。しまりなし。
- 2 10YR5/6 黄褐色 0.2~0.5cmローム主体に、明褐色土わずかに含む。炭化物
わずかに含む。やわらかくボソボソ
- 3 10YR6/6 明褐色 5~10cmロームブロック主体。ボソボソな天井の崩落土。
- 4 10YR4/6 黄褐色 0.2~0.5cmロームブロック主体にし、ボソボソなし。
- 5 75YR4/4 黄褐色 0.2cm大的ロームブロックを多く含む明褐色土を主体とする。
やわらかくボソボソ。

D04土層説明

- 1 10YR4/6 黄褐色 ローム小ブロックや多く含む。暗褐色土主体。しまりなし。
- 2 10YR3/4 明褐色 0.3~0.5cm大ロームを多く含む。
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色 明褐色土主体に、ローム粒多
量に含む。しまりあり。

D05土層説明

- 1 10YR4/4 黄褐色 0.5~3cm大ロームブロック主体。やわ
らかくボソボソしている
- 2 10YR5/6 黄褐色 1層類似。さらにロームブロック主体。
- 3 10YR4/4 ローム ロームブロック主体に明褐色土わずか
に含む。しまりなし。
- 4 10YR3/4 明褐色 明褐色土主体にローム小ブロック多
く含む。しまりなし。



第11図 D01~D05・D18

D0 6

D0 8に切られる。土坑の壁面は被熱により赤変硬化し、底には人骨混じりの炭化物が厚く堆積しており、火葬施設と考えられる。切り合いにより一部しか残っていないが、形態や堆積状況からD1 8と同様の形態になると考えられる。

D0 7

東側高台上の北端、調査区端に位置する地下式坑で、M0 2に切られ、地下室は調査区外へと広がる。確認面から床までの深さ約4メートル。南西側を入口とする。粘土層を床面とし、地下室は2.7m×1.5mの長方形。壁面は垂直に1.2m立ち上がる。

D0 8

D0 6 Dを切る。南東側に入口を持つ地下式坑で、確認面から床までの深さ約2.4m。地下室は2.0m×1.6mの不整形な長方形で、北東側の床面が20cm程低くなる。壁面は約1mほど垂直に立ちあがる。覆土からは内耳土鍋などが出土している。

D1 1

D2 3と隣接して存在する土坑で、ローム・焼土・炭化物の混じった比較的同質の土で埋められている。堆積状況や形状などから土坑墓と考えられる。

D1 2

東側高台上に位置する土坑で、堆積状況から一度埋められた後に掘り返され、また埋められたようである。

D1 7

D0 6・D0 8に隣接して所在する土坑である。比較的同質の土で人为的に埋められており、堆積土や形状などから土坑墓と考えられる。

D2 3

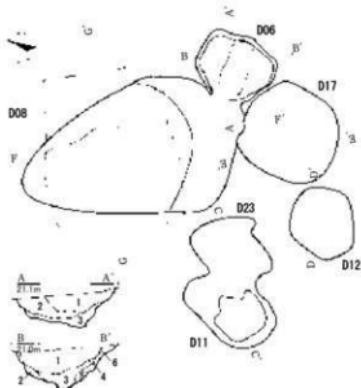
D1 1と隣接して存在する土坑で、人为的に埋められている。微細な焼土粒・炭化物粒の混じる土の中から人骨片と歯が見つかっており、火葬骨を埋葬した土坑墓と考えられる。

D0 9

東側高台区画の南側に所在する地下式坑で、北側に入口を持つ。床面中央が1.2m×1.5m程の範囲で0.5m程下がっている。確認面から床面上段まで約2.0mで、地下室は2.2m×1.6mの長方形。壁面は床面上段から1.0m程ほど垂直に立ち上がる。

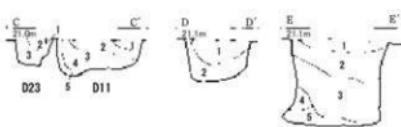
D1 0

比較的大型の土坑であるが、堆積状況から数度の掘り返しにより広がったものと思われる。覆土中より大型の砾石が出土している。



D06土層説明

- 1 10YR5-8 黄褐色 しまりあり。粘性あり。細かい地土粒と炭化物粒混じる。
- 2 10YR5-6 黄褐色 しまりあり。粘性や弱い。地土粒と1cm程炭化物粒混じる。
- 3 10YR3-4 黄褐色 しまりあり。粘性ははなし。炭化物多く含む。地土粒混じる。
- 4 10YR5-8 黄褐色 ロームブロック。樹木の崩落土。
- 5 10YR2-2 黒褐色 炭化物層。地土粒混じる。しまりあり。
- 6 10YR5-8 黄褐色 しまりあり。粘性あり。ローム層。
- 7 10YR3-3 黒褐色 炭化物層に地土粒混じる。



D23土層説明

- 1 10YR5-6 黄褐色 しまりあり。粘性やや弱い。ロームブロックの間に土。燒土粒、炭化物混じる。
- 2 10YR5-6 黄褐色 しまりあり。粘性あり。2cm程の燒土粒と2~3cm程のロームブロック含む。
- 3 25YR4-6 黄褐色 しまりあり。全体的に緻密な土。細かい燒土粒、炭化物粒混じる。人骨粉と歯出土。

D11土層説明

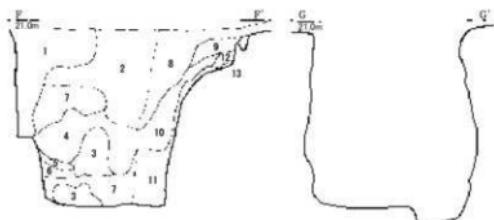
- 1 10YR5-6 黄褐色 しまりあり。粘性なし。ロームブロックの間に燒土粒、土混じる。
- 2 10YR5-6 黄褐色 しまりあり。粘性ははなし。燒土粒とロームブロック含む。
- 3 10YR5-8 黄褐色 しまりあり。粘性やや弱い。1~2cmの燒土粒多く含む。4~5cm程のロームブロック含む。
- 4 10YR4-6 黄褐色 しまりあり。粘性あり。1~2cm焼土粒多く含む。炭化物粒わずかに含む。2~3cm程のロームブロック含む。
- 5 10YR5-6 黄褐色 しまりあり。粘性あり。2~3cmのロームブロック少量混じる。

D12土層説明

- 1 75YR4-3 暗褐色 炭化物。ローム小ブロックわずかに含む。やややわらかくしまりなし。
- 2 75YR3-4 暗褐色 ローム小ブロックわずかに含む。暗褐色土主体。しまりあり。

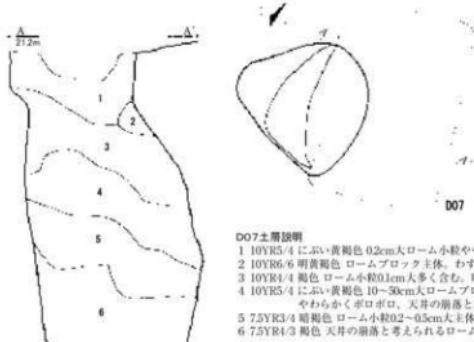
D17土層説明

- 1 75YR4-1 暗褐色 3~5cm大のロームブロック含む。
- 2 10YR4-5 黄褐色 3~5cm程のロームブロック混じる。しまり強・粘性あり。
- 3 10YR5-6 黄褐色 5~10cm程のロームブロックが土混じりで堆積する。しまり弱く崩れやすい。
- 4 10YR5-6 黄褐色 しまりあり。粘性あり。微量のローム粒混じる。粒子細かい。
- 5 10YR5-6 黄褐色 しまり・粘性あり。2cm程のローム粒混じる。粒子細かい。



D08土層説明

- 1 10YR5-8 黄褐色 地山層。
- 2 10YR4-6 暗褐色 烧土粒混じる粒子細い土。粘性・しまりあり。
- 3 10YR3-5 黄褐色 崩落した天井部分。しまり非常に固い。粘性あり。
- 4 75YR3-4 暗褐色 5cm程のロームブロック混じる。粘性・しまりあり。
- 5 75YR4-6 暗褐色 ローム粒混じり、粒子細い。しまりやや弱く、粘性あり。
- 6 10YR5-8 黄褐色 ロームブロックに土が混じる。崩落土。しまりやや弱く、粘性あり。
- 7 75YR4-6 暗褐色 ロームブロック混じる。粘性・しまりあり。
- 8 75YR4-4 暗褐色 3~5cm大のロームブロック含む。やわらかくしまりなし。
- 9 10YR5-6 黄褐色 烧土粒含む。暗褐色土主体。ローム小ブロックわずかに含む。やわらかくしまりなし。
- 10 75YR4-4 暗褐色 炭化物層。ローム小ブロックわずかに含む。しまりなし。
- 11 10YR4-4 暗褐色 ローム小ブロック多く含む。しまりなし。
- 12 10YR3-2 黄褐色 炭化物含む暗褐色土。燒土粒わずかに含む。やわらかくしまりなし。
- 13 10YR5-6 黄褐色 0.2cm大のロームわずかに含む。やわらかくしまりなし。

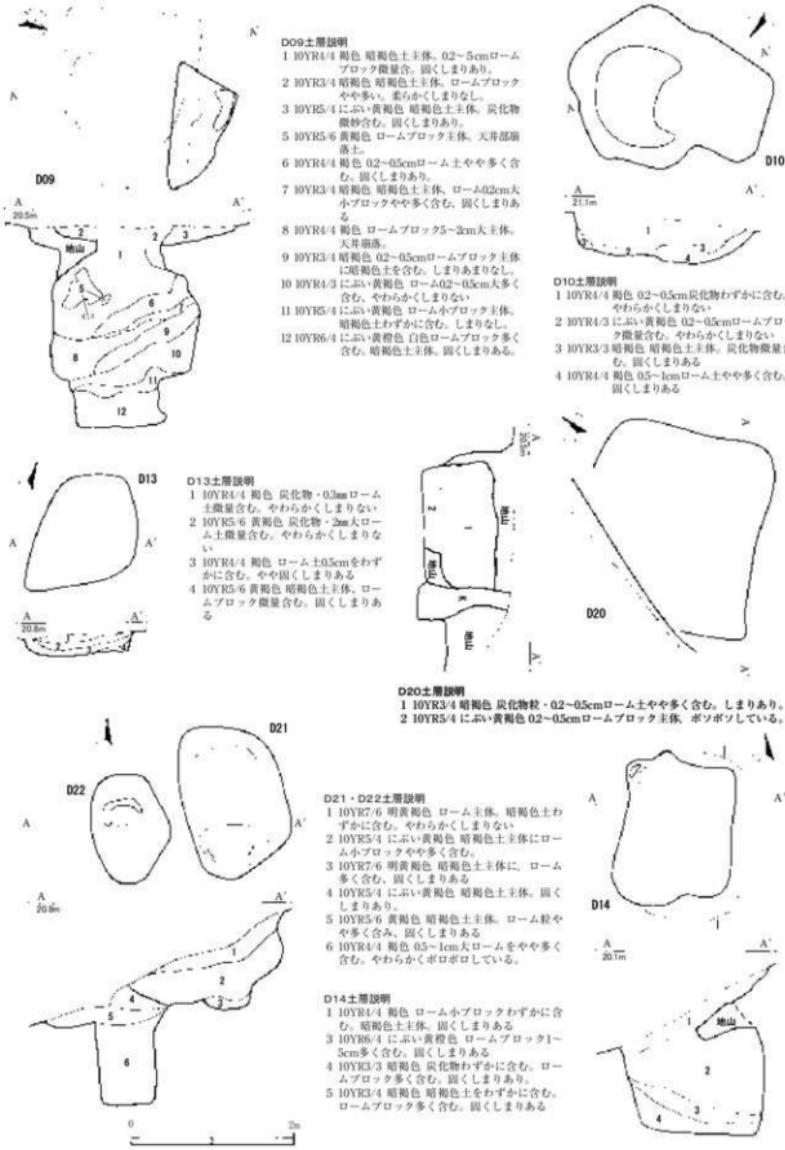


D07土層説明

- 1 10YR5-4 にぶん黄褐色 0.2cm大ローム小粒や多く、焼土、炭化物含む。固くしまりある。
- 2 10YR6-6 明黄褐色 ロームブロック主体。わずかに暗褐色土層じる。ボロボロした感じ。
- 3 10YR4-4 暗褐色 ローム小粒0.1cm大多く含む。暗褐色土主体。やわらかくしまりない。
- 4 10YR5-4 にぶん黄褐色 10~30cm大ロームブロック主体。暗褐色土わずかに含む。やわらかくボロボロ。
- 5 75YR3-4 暗褐色 ローム小粒0.2~0.5cm大土粒。やわらかくしまりない。ボロボロ。
- 6 75YR1-3 暗褐色 天井の崩落と考えられるロームブロック多量に含む。しまりなし。

0 100m

第12図 D06~D08・D11・D12・D17・D23



第13図 D09・D10・D13・D14・D20~D22

D 1 3

東側高台上に存在する土坑で、ロームを含む比較的同質の土で人為的に埋められたと考えられる。堆積状況や形状から土坑墓か。

D 1 4

東側高台区画と中央掘り込み区画の境の崖面南側で確認された地下式坑である。天井・縦坑部分は、中央掘り込み区画の掘削に伴い削平されたと考えられる。西側に入口を持ち、地下室の形状は楕円に近い隅丸長方形で、壁面は約1.0m垂直に立ち上がる。覆土中から鍛冶の炉体と考えられるものが出土している。

D 2 0

東側高台区画と中央掘り込み区画の境の崖面中央付近で確認された地下式坑である。天井・縦坑部分は、中央掘り込み区画の掘削に伴い削平されたと考えられる。推定になるが西側に入口を持ち、地下室はほぼ方形で、壁面は0.9m程垂直に立ち上がる。

D 2 1

東側高台区画の北寄りを掘り込んだ区画との間に位置する。人骨（頭蓋骨）と副葬品と考えられる白磁片が出土した。人骨は頭蓋骨のみで、南西を向いて、右側面を下にした状態で見つかった。白磁片は人骨上よりわずかに浮いた状態で出土している。土坑内に炭化物や焼土の堆積は見られないが、人骨に火を受けた痕跡があり、別の場所で火葬された人骨と考えられる。

D 2 2

D 2 1 の西側に隣接し、D 2 1 に切られる土坑。人為的な堆積が見られ、形状等から土坑墓と考えられる。

D 2 5

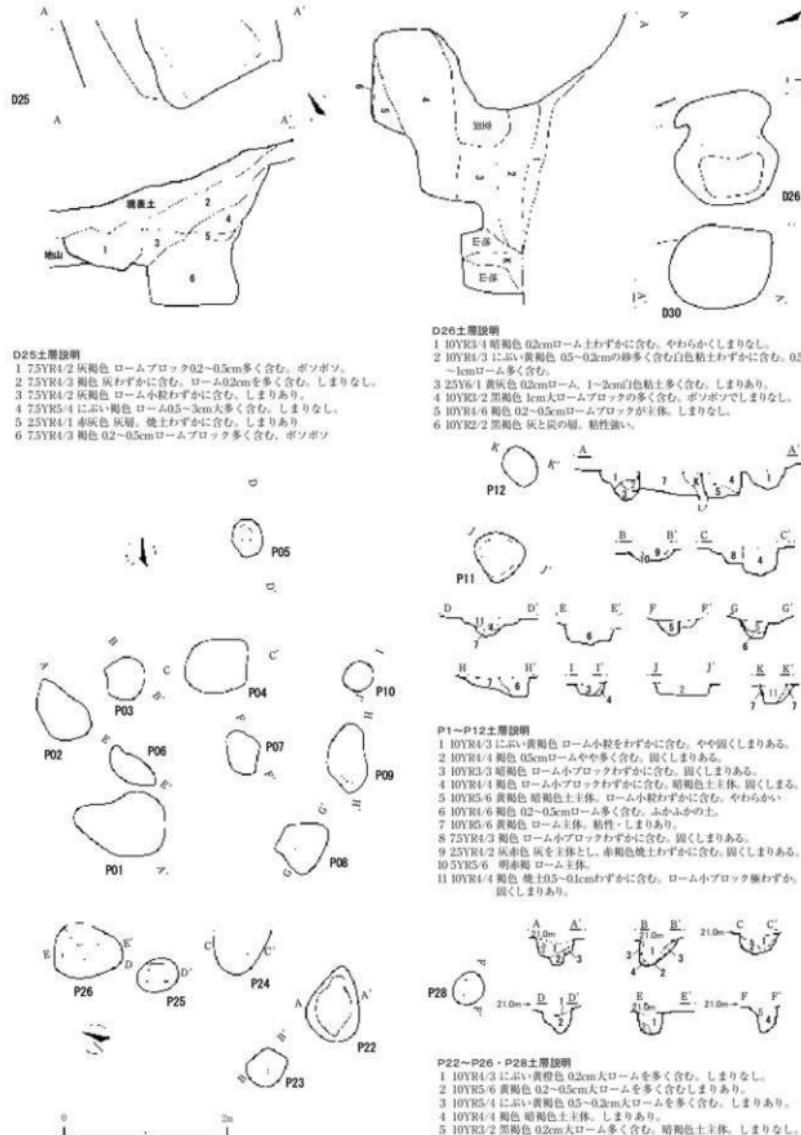
東側高台と中央掘り込み区画の境界となる崖面中、調査区北端に位置する地下式坑で、調査区外へと遺構は伸びる。中央の掘り込みにより天井・縦坑は削平されており、内耳土鍋等の土器類の他、板碑片や砥石、鉄釘、アカニシと考えられる巻貝が覆土から出土した。形状から西側に出入り口が存在したと考えられる。

D 2 6・D 3 0

東側高台区画と中央掘り込み区画の境の崖面中央付近、D 2 0 の北側に隣接して存在する地下式坑である。中央の掘り込みにより天井・縦坑は削平されているが、縦坑と地下室がわかれた構造をしている。

調査時点で平面形からD 3 0 と別な遺構として記録したが、D 3 0 を入口として、仕切り状に幅30cm程残された地山を越えて地下室へ進入する形状の可能性がある。地下室部分は円に近い隅丸方形で、壁面は0.4m程垂直に立ち上がる。仕切り部分に転がるように茶釜の模倣とみられる土製釜が出土した他、覆土中から内耳土鍋やかわらけが出土している。

また、確認調査時にこのすぐ北西側に設定したトレーンチ内から輸入青磁片が出土している。



第14図 D25・D26・D30・P1~P12・P22~P26・P28

P 1～P 12

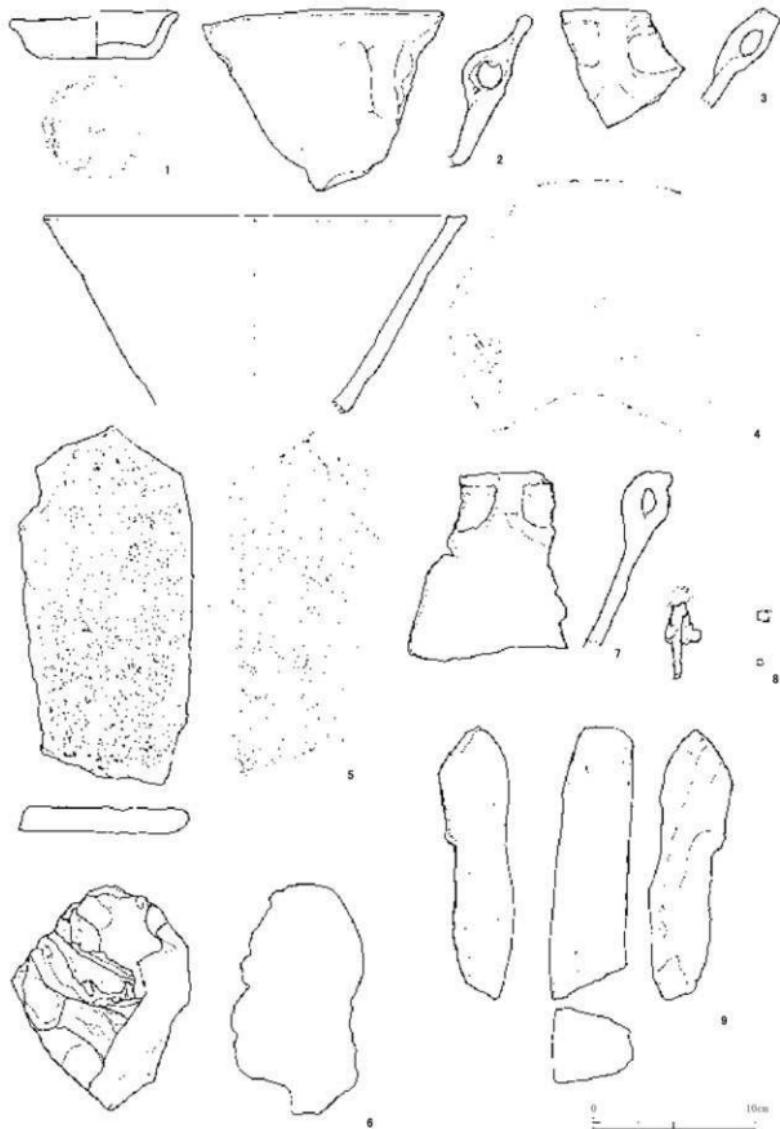
S A 0 2 の裾部分にややくい込むように所在するピット群である。土壙に囲まれた高台区画の南東端にあたる。P 3 については灰や焼土の堆積が見られ、屋外炉の可能性がある。他は柱穴と考えられる。

P 22～P 26・P 28

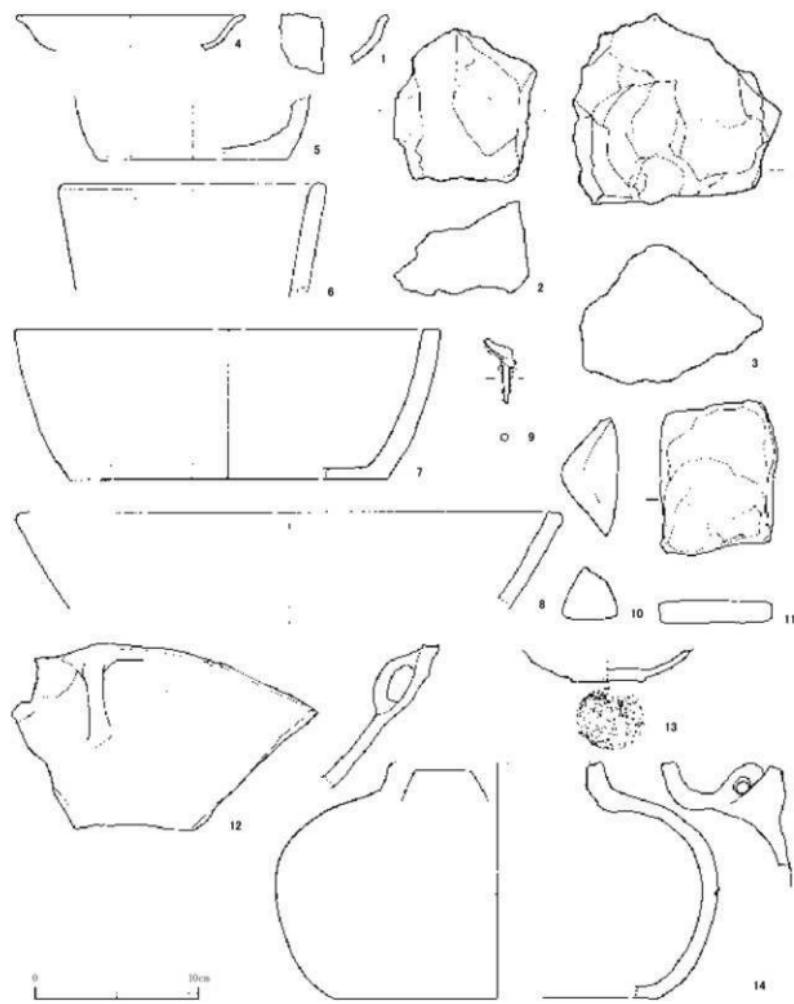
東側高台区画の東端、土壙 S A 0 1 の下に所在するピット群である。台地縁辺に並ぶことから、欄列の可能性もあるが、市教委調査範囲の外にまだピットが展開する可能性が高い。

調査区東側高台遺構観察表

遺構番号	位置	平面形態	主軸	断面形	長軸×短軸×深さ(m)	備考
D01	東高台	長方形	N-116°-W	—	2.0×1.6×2.4	地下式坑
D02	東高台	円形	—	箱形	1.6×1.6×0.6	土坑墓か
D18	東高台	楕円形	N-77°-E	U字状	2.3×1.0×0.7	火葬施設。人骨片出土。
D03	東高台	長方形	N-112°-W	ドーム状か	2.0×1.2×2.4	地下式坑
D04	東高台	円形	—	箱形	1.15×1.1×0.7	土坑墓。繩文土器・土器擂鉢出土
D05	東高台	円形	—	箱形	1.4×1.3×0.8	土坑墓、人骨出土
D06	東高台	不明	—	皿形	0.9以上×0.9×0.5	火葬施設。人骨片出土
D07	東高台北端	長方形	N-54°-E	—	2.7×1.5×3.7	地下式坑
D08	東高台	長方形	N-33°-W	—	2.0×1.6×2.4	地下式坑
D11	東高台	楕円形	N-9°-E	箱形	1.2×0.7×0.45	土坑墓か
D12	東高台	楕円形	N-50°-E	箱形	0.9×0.8×0.5	土坑墓か
D17	東高台	円形	—	箱形	1.2×1.15×1.0	土坑墓か
D23	東高台	楕円形	N-7°-E	箱形	1.1×0.7×0.35	土坑墓。人骨出土
D09	東高台南	長方形	N-18°-W	—	2.2×1.6×2.45	地下式坑。底部に土坑状の掘り込み。
D10	東高台	楕円形	N-58°-E	皿形	2.5×1.9×0.5	土坑墓か
D13	東高台	楕円形	N-12°-E	箱形	1.8×1.3×0.25	土坑墓か
D14	東高台	長方形	N-79°-W	—	2.0×1.5×1.2	地下式坑
D20	東高台	方形	N-52°-E	—	2.0×2.0×0.9	地下式坑。貝片出土
D21	東高台	楕円形	N-18°-W	皿形	1.9×1.2×1.2	土坑墓、白磁片・人骨出土
D22	東高台	楕円形	N-12°-W	箱形	1.3×0.9×1.5	土坑墓か
D25	東高台	方形か	N-4°-W	—	1.6×1.1×1.6	地下式坑
D26	東高台	圓丸方形	N-84°-W	—	2.2×1.4×2.0	地下式坑
D30	東高台	楕円形	N-84°-W	箱形	1.2×1.0×0.7	D26の縦坑と考えられる
P27	東高台	円形	—	箱形	0.6×0.6×0.3	
P01	東高台南	楕円形	N-77°-W	箱形	1.1×0.8×0.3	
P02	東高台南	楕円形	N-42°-W	柱状	0.8×0.55×0.35	
P03	東高台南	円形	—	皿状	0.5×0.5×0.1	埋跡
P04	東高台南	楕円形	N-48°-W	U字状	0.74×0.66×0.34	
P05	東高台南	楕円形	N-24°-W	皿状	0.5×0.4×0.23	
P06	東高台南	楕円形	N-62°-W	箱形	0.7×0.3×0.2	
P07	東高台南	楕円形	N-29°-W	柱状	0.6×0.4×0.2	
P08	東高台南	円形	—	柱状	0.65×0.65×0.2	
P09	東高台南	楕円形	N-9°-W	柱状	0.85×0.46×0.25	
P10	東高台南	円形	—	箱形	0.36×0.36×0.15	
P11	東高台南	円形	—	柱状	0.6×0.6×0.15	
P12	東高台南	楕円形	N-55°-W	柱状	0.5×0.38×0.25	
P22	東高台	楕円形	N-68°-E	柱状	0.93×0.66×0.35	
P23	東高台	円形	—	柱状	0.5×0.48×0.3	
P24	東高台	楕円形か	—	丸底状	0.6×0.7×0.25	一部調査区外のため長軸不明
P25	東高台	楕円形	N-52°-W	柱状	0.5×0.4×0.27	
P26	東高台	楕円形	N-31°-W	柱状	0.82×0.68×0.28	
P28	東高台	円形	—	柱状	0.4×0.38×0.3	



第15図 D01・D03・D08～D10出土遺物



第16図 D14・D21・D25・D26出土遺物

D 01・D 03・D 08・D 09・D 10出土遺物観察表

国版番号 出土遺物	器種等	部位	計測値(cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1 D01	土器 かわらけ	口縁～底部	3.0	10.6	7.0	淡黄褐色	長石、石英、赤色、黒色鉱物、雲母	底部糸切り。ナデ調整
2 D03	土器 内耳土鍋	口縁部	—	—	—	黒褐色	長石、石英	
3 D03	土器 内耳土鍋	口縁部	—	—	—	外：黒色 内：淡暗褐色	長石、石英 雲母	口縁部外側にスス付着
4 D03	土器 擂鉢	口縁～底部	12.0 (残存高)	(26.3)	—	橙色	白色・赤色 黒色鉱物	ヘラナデ。よく焼き締まっている。瓦質
5 D03	石製品 板牌		22.0 (残存長)	10.6 (残存幅)	1.5 (最大厚)	青緑色	雲母片岩	表面に梵字の一部あり。異体字のキリーカ。
6 D03	岩石 不明		14.0 (最大長)	11.0 (最大幅)	7.4 (最大厚)	灰色	鞍山岩か	表面に流動した様な痕跡あり。滑岩か。
7 D08	土器 内耳土鍋	口縁～体部	—	—	—	外：淡褐色 内：淡黃褐色	長石、石英 雲母	
8 D09	鉄製品 釘か		5.8 (最大長)	2.2 (最大幅)	0.7 (最大厚)			長軸の中央無面に突起状の部品あり。
9 D10	石製品 砥石		17.0 (最大長)	4.6 (最大幅)	4.5 (最大厚)	淡黃白色	シルト岩か	

D 14・D 21・D 25・D 26出土遺物観察表

国版番号 出土遺物	器種等	部位	計測値(cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1 D14	陶器 天目茶碗か	口縁部	—	—	—	オリーブ灰褐色	白色・黒色鉱物	瀬戸・美濃窯
2 D14	岩石 炉体		9.4 (最大長)	8.3 (最大幅)	5.6 (最大厚)	暗褐色		一面のみ被熱している。鍛冶炉の炉体に利用したか。
3 D14	岩石 炉体		12.8 (最大長)	11.8 (最大幅)	8.6 (最大厚)			一面のみ被熱している。鍛冶炉の炉体に利用したか。
4 D21	磁器 白堀碗	口縁～体部	— (最大長)	— (最大幅)	— (最大厚)	灰白色		口縁部は外反する。中国産磁器か
5 D25	陶器 瓶子か	底部	4.0 (残存高)	— (12.0)	— (最大厚)	外：暗オリーブ 内：暗黄褐色	白色・黒色鉱物 ヘラ削り	
6 D25	土器 鉢か	口縁部	(残存高)	(17.0)		外：暗黄褐色 内：暗褐色	長石、石英 赤色鉱物	
7 D25	土器 土鍋	口縁～底部	9.2	(26.4)	(19.8)	暗黄褐色	長石、石英 雲母	ヘラナデ。源法寺焼か
8 D25	土器 内耳土鍋	口縁部	6.6 (残存高)	(34.0)	—	外：黒褐色 内：暗褐色	長石、石英	
9 D25	鉄製品 釘		3.4 (最大長)	0.8 (最大幅)	0.5 (最大厚)			
10 D25	石製品 砥石		7.4 (最大長)	3.4 (最大幅)	3.2 (最大厚)	灰白色		
11 D25	石製品 板磚		8.6 (残存長)	7.2 (残存幅)	1.5 (最大厚)	青灰色	砂岩	
12 D26	土器 内耳土鍋	口縁部	—	—	—	外：黒色 内：黒褐色	長石、石英 赤色鉱物	外面スス付着。
13 D26	土器 かわらけ	底部	9.0 (残存高)	—	4.5	暗褐色	長石、石英 赤色鉱物	
14 D26	土器 釜	口縁～底部	14.6	(13.4)	(20.0)	灰色	長石、石英	ヘラナデ調整。体部中央に細い沈線が1条入る。被熱により表面が脆くなっている。外面スス付着。茶釜模倣か

D 15・D 16・D 31・D 40・M 03・M 08

中央掘り込み区画の北東隅を突出させるようにD 16を掘り込んでできた台地整形区画である。土層の観察からD 31・D 41の2つの土坑を切ってD 16が掘られ、その後D 15, M 08, M 03の順番に掘削されている。D 31・D 41については、D 16に先行することから、D 22にみられるような比較的深く掘削する土坑の底面部分であろうか。D 15については竪穴状の遺構であるが、柱穴等の施設を伴わないため、その性格は不明である。M 03・M 08は切り合い関係にあるが、堆積状況や形状などから、同時に存在していたと考えられる。

D 19

D 16とD 45に切られる。箱形の断面を呈する土坑である。堆積状況や形態から、土坑墓と考えられる。

D 45

D 16に切られ、D 19を切る。D 05と類似した土坑である。

D 44

D 45に隣接して存在する土坑で、人為的に埋設されている。

D 24

掘り込み区画南側に位置する。調査区外へと遺構が伸びている。当初土坑と考えて調査したが、遺構の形状や配置から溝跡の可能性が高く、04M, 07Mと連結して、掘り込み区画西側をコの字状に区画する溝となる可能性がある。覆土からは陶磁器やかわらけ、内耳土鍋などの土器類の他、鉄滓や金床石と考えられるものが出土している。

P 13～P 21・D 46

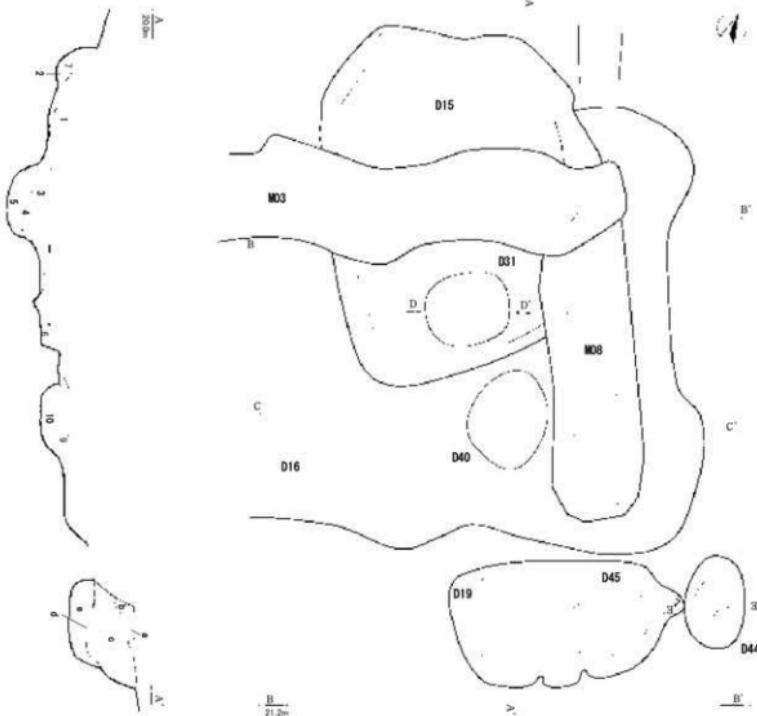
調査区中央の掘り込み区画の南側に位置するピット群である。P 13～P 16・P 19～P 21が柱穴と考えられる。調査区外へとピット群が展開していくと考えられる。

D 29

掘り込み区画西側に位置する竪穴状の遺構である。遺構の形状などから、地下式坑の底部分である可能性もある。出土遺物としてかわらけや内耳土鍋が覆土中から見つかっている。

D 16及び周辺遺構観察表

遺構番号	位置	平面形態	主軸	断面形	長軸×短軸×深さ(m)	備考
D15	堀込北東	—	N-55°-E	—	4.0×25×0.5	竪穴状遺構
D16	堀込北東	—	N-67°-E	—	6.0×55×0.8	台地整形遺構
M08	堀込北東	—	N-26°-W	逆台形	3.6×11×0.6	
D19	東高台	楕円形か	N-23°-W	箱形	1.7×12×0.8	巻貝出土、土坑墓か
D45	東高台	円形か	N-42°-E	箱形	1.6×16×0.5	土坑墓か
D31	堀込北東	円形	—	箱形	1.0×10×0.3	
D40	堀込北東	円形	—	箱形	1.2×11×0.3	
D44	東高台	楕円形	N-24°-W	箱形	1.1×0.7×0.4	土坑墓か



D19土層説明

- a 7.5YR4/4 黄褐色 地下物わずかに含む。
固くしまりある。
- b 7.5YR3/2 黑褐色 黑褐色土を主体とし、地土、
炭化物微量含む。固くしまりあり。
- c 7.5YR4/4 黄褐色 0.2~0.2cmわざかに含む暗
褐色土主体。固くしまりある。
- d 10YR3/2 黑褐色 黑褐色土を主体、ローム小粒
0.2cmわざかに含む。
- e 10YR3/2 黑褐色 ロームブロックやや多く含む。
暗褐色土主体。固くしまりあり。

D15-D16土層説明

- 1 10YR5/6 黄褐色 ローム小ブロックやや多く含む。
暗褐色土主体。固くしまりあり。
- 2 10YR4/4 黄褐色 0.2~0.5cm大ロームをやや多く含む。
暗褐色土主体。固くしまりあり。
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色 0.2~0.5cmロームをやや
多く含む。ボソボソ。固くしまりあり。
- 4 10YR6/1 黑褐色 灰を主体0.5cm以上+ローム
ブロックわざかに含む。固くしまりあり。
- 5 10YR3/4 黄褐色 暗褐色土主体。ロームを含む。固くしまりあり。
- 6 10YR4/4 黄褐色 暗褐色土主体。ローム小粒わざかに含む。固くしまりあり。
- 7 10YR3/3 黄褐色 地下物、ロームブロック含む。粘性。しまりあり。
- 8 10YR5/6 にぶい黄褐色 2cm~5cmの大ローム多く含む。しまりあり。
- 9 10YR5/4 にぶい黄褐色 ローム小粒わざかに含む。固くしまりあり。
- 10 10YR4/4 黄褐色 ローム小粒、中粒やや多く含む。固くしまりあり。
- 11 10YR5/5 にぶい黄褐色 ローム主体。地山

0 2m

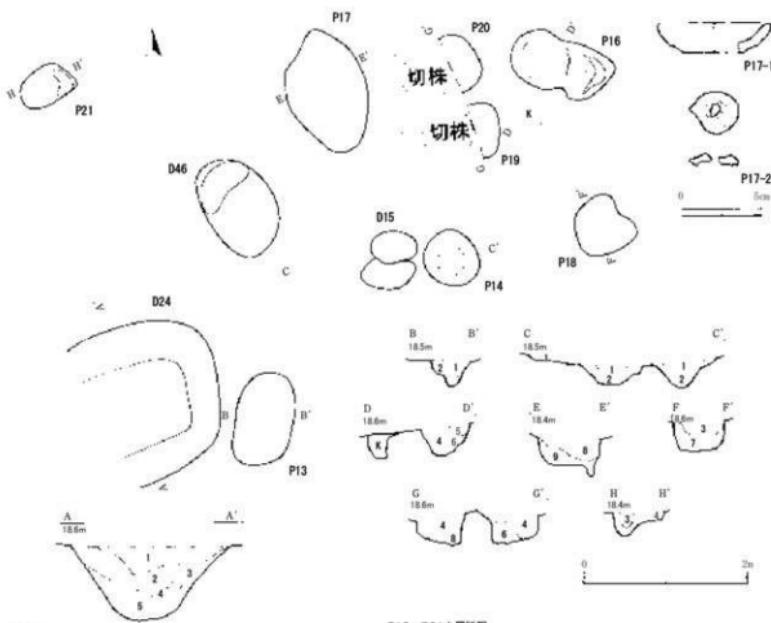
第17図 D15・D16・D19・D31・D40・D44・D45・M08

D31土層説明

- 1 10YR5/6 にぶい黄褐色 0.5~0.2cmの大ロームを
やや多く含む。しまりあり。
- 2 10YR3/2 黑褐色 地上+0.5cm大ロームをわざかに
含む。しまりあり。
- 3 10YR3/3 黄褐色 0.5~0.2cm大ロームを主体とす
る。しまりあり。

D44土層説明

- 1 10YR3/3 黄褐色 ロームブロック含む。しまりや
や弱く、粘性あり。

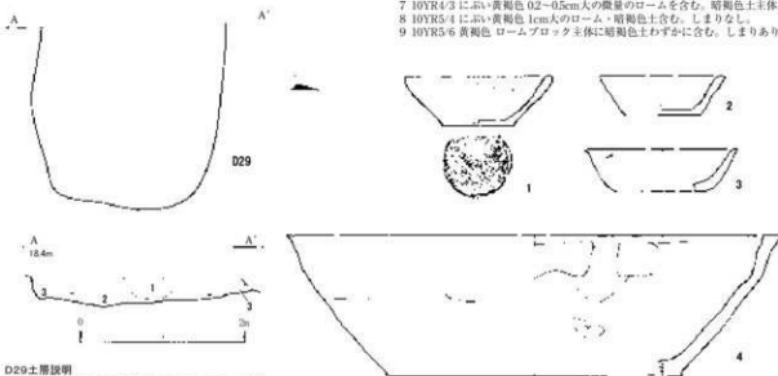


D24土層説明

- 1 10YR6/4 に赤い黄褐色 0.2~0.5cm 大ロームを主体とする。しまりなし。
- 2 10YR5/4 に赤い黄褐色 0.2~0.5cm 大ロームわずかに含む。しまりあり。
- 3 10YR5/6 黄褐色 0.2~1cm 大ローム主体。微量の暗褐色土含む。しまりなし。
- 4 10YR5/2 に赤い黄褐色 白色粘土。しまりあり。
- 5 10YR5/6 黄褐色 0.2~1cm 大ロームを多く含む。しまりあり。

P13~P21土層説明

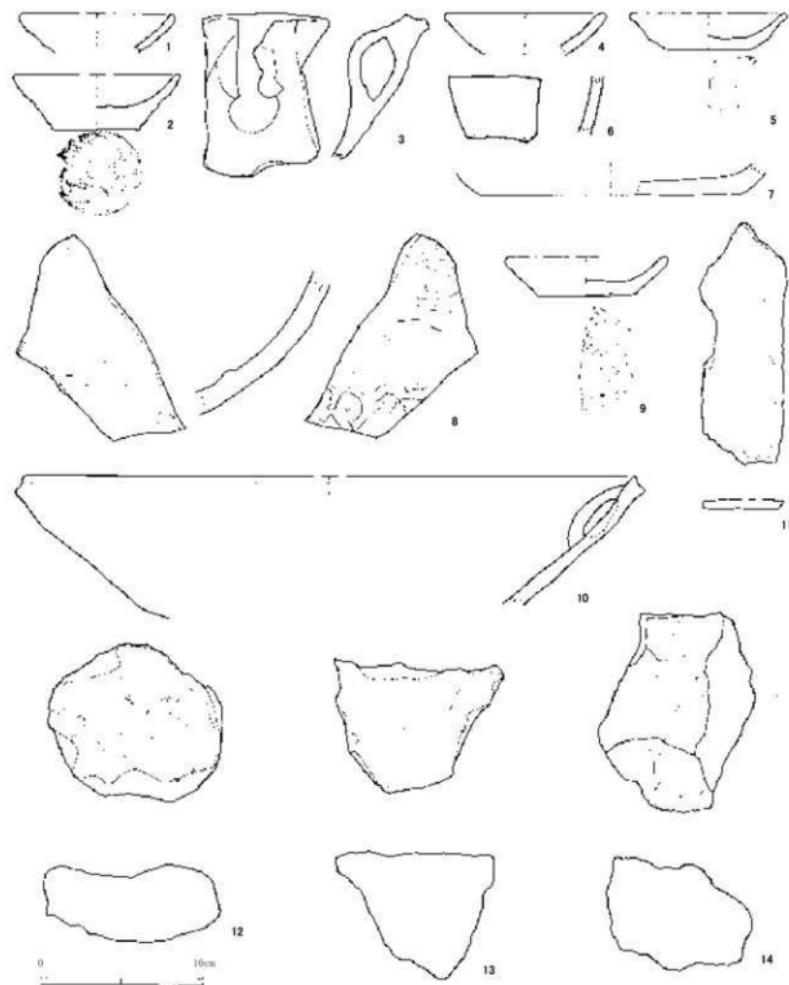
- 1 10YR4/4 赤色 0.2~0.5cm ローム、暗褐色土含む。しまりなし。
- 2 10YR3/4 明褐色 黄褐色土主体。0.2~0.5cm ローム多く含む。しまりなし。
- 3 10YR4/3 に赤い黄褐色 0.2~1cm 大ロームをやや多く含む。
- 4 10YR3/4 黄褐色 0.2~0.5cm 大人の脚量のロームを含む。暗褐色土。しまりなし。
- 5 10YR3/4 明褐色 0.5cm 大人の脚量のローム。暗褐色土。しまりあり。
- 6 10YR3/3 黄褐色、暗褐色土主体。0.5cm 大人の脚量のロームを含む。暗褐色土。しまりなし。
- 7 10YR4/3 に赤い黄褐色 0.2~0.5cm 大人の脚量のロームを含む。暗褐色土主体。
- 8 10YR5/6 黄褐色 ロームブロック主体に暗褐色土わずかに含む。しまりあり。
- 9 10YR5/6 黄褐色 ロームブロック主体に暗褐色土含む。しまりあり。



D29土層説明

- 1 10YH5/3 に赤い黄褐色 0.5~0.2cm 大のローム多く含む。
- 2 10YR4/4 赤色 暗褐色土主体に 0.5~1cm 大のローム微量含む。しまりなし。
- 3 10YR6/4 に赤い黄褐色 0.5~1cm 大のローム主体。やや固くしまりあり。

第18図 D24・P13~P21・D46・D29構造・遺物



第19図 D15・D19・D24出土遺物

P17出土遺物観察表

図版番号	器種等	部位	計測値(cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
P17-1	土器 かわらけ	口縁～底部	1.8	(7.0)	(3.8)	淡橙色	長石、石英 赤色鉱物	底部糸切り
P17-2	土製品 不明		3.0 (最大長)	2.7 (最大幅)	0.6 (最大厚)	暗淡褐色	長石、石英	

D 2 9 出土遺物観察表

団版番号	器種等	部位	計測値(cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土器 かわらけ	口縁～底部	3.1	(9.2)	4.6	外：暗淡褐色 内：暗褐色	長石、石英 赤色鉱物	底部糸切り。一部にスス付着。燈明皿か
2	土器 かわらけ	口縁～底部	2.4	(7.8)	4.6	暗淡褐色	長石、石英、黒色・ 赤色鉱物、雲母	底部糸切り
3	土器 かわらけ	口縁～底部	2.7	(9.4)	(5.6)	暗淡褐色	長石、石英、黒色・ 赤色鉱物、雲母	底部ヘラ切り
4	土器 内耳土鍋	口縁～底部	8.8	(30.6)	(18.4)	淡褐色	長石、石英、色鉱物、 雲母	よく焼き締まっている。瓦質。

D 1 5 · D 1 9 · D 2 4 出土遺物観察表

団版番号 出土遺物	器種等	部位	計測値(cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1 D15	土器 かわらけ	口縁部 (残存高)	2.5 (9.8)	—	—	暗褐色	長石、石英 赤色鉱物	
2 D15	土器 かわらけ	口縁～底部	3.3 (10.4)	—	5.4	淡橙色	長石、石英 雲母	底部糸切り。底部をヘラ削りにより突出させる。
3 D15	土器 内耳土鍋	口縁部	—	—	—	外：暗淡褐色 内：灰色	長石、石英 赤色鉱物	
4 D19	土器 かわらけ	口縁～体部 (残存高)	2.4 (10.0)	—	—	淡褐色	長石、石英、赤色・ 黒色鉱物	ロクロ成形
5 D19	土器 かわらけ	口縁～底部	2.2 (9.8)	—	5.0	淡橙色	長石、石英 雲母	底部糸切り。ロクロ成形
6 D24	陶器 碗か	体部	—	—	—	灰白色	長石、石英、白色・ 黒色鉱物	内面は全面施釉。外面は施釉されていないが、一部に釉が垂れている。
7 D24	土器 甕	底部	1.7 (残存高)	—	(16.0)	外：暗淡褐色 内：灰色	長石、石英、赤色・ 黒色鉱物	
8 D24	磁器 皿か	体部	—	—	—	青緑色		外面草花の文様が陽刻され、内面は1条の凸帯が巡る。青緑色の釉がかけられている。
9 D24	土器 かわらけ		—	—	—	—	長石、石英、 赤色鉱物	底部糸切り
10 D24	土器 内耳土鍋		8.0 (残存高)	(33.0)	—	黑色	長石、石英	内外面ともスス付着。
11 D24	石製品 板碑か		15.0 (最大長)	5.4 (最大幅)	0.7 (最大厚)	緑青色	雲母片岩か	加工痕等なし。
12 D24	鉄滓 碗型滓		10.8 (最大長)	9.3 (最大幅)	4.6 (最大厚)	茶褐色		重量 720g
13 D24	石製品 金床石か		10.2 (最大長)	8.0 (最大幅)	7.7 (最大厚)	暗褐色		一面に被熱と打撃による表面の剥離が見られることから金床石として使用された可能性あり
14 D24	岩石 不明		12.0 (最大長)	9.0 (最大幅)	6.3 (最大厚)	黒灰色	玄武岩か	

調査区中央掘り込み区画南側構造遺構観察表

遺構番号	位置	平面形態	主軸	断面形	長軸×短軸×深さ(m)	備考
D24	中央南	—	N-76°-E	逆台形	1.9×1.5×0.9	溝の可能性あり。長軸不明
P13	中央南	楕円形	N-16°-E	柱状	1.2×0.7×0.3	
P14	中央南	楕円形	N-32°-W	柱状	0.7×0.54×0.24	
P15	中央南	円形	N-30°-E	柱状	0.4×0.3×0.3	
P16	中央南	楕円形	N-73°-W	柱状	1.3×0.7×0.35	
P17	中央南	楕円形	N-14°-W	箱形	1.6×1.1×0.3	
P18	中央南	楕円形	N-49°-E	箱形	0.8×0.65×0.36	
P19	中央南	円形か	—	柱状	0.7×0.3×0.37	切株により規模等不明
P20	中央南	円形か	—	柱状	0.7×0.33×0.36	切株により規模等不明
P21	中央南	楕円形	N-67°-E	柱状	0.7×0.45×0.3	
D46	中央南	楕円形	N-32°-W	箱形	1.28×0.84×0.35	土坑
D29	中央西	方形	N-88°-E	箱形	2.3×2.3×0.3	地下式坑か

D 2 7

掘り込み区画北側に所在する。天井等上部は削られているが地下式坑である。北側がD 4 1とM 0 7に切られている。白色粘土層を掘り込み床面とする。地下室部分は2.5m×2.2mの長方形で南西側の壁面中央で、入口部分が突出する。

D 2 8

掘り込み区画北側に所在する。天井等上部は削られているが地下式坑である。白色粘土層を掘り込み床面とする。地下室部分は2.5m×2.0mの長方形で南側の壁面中央に入口部分が突出する。

D 4 1

掘り込み区画北側に位置し、M 0 7の覆土を掘り込んで作られている。浅いすり鉢状の掘り込みの中に蔵骨器、又は経筒と思われる陶器が投げ込まれたような状態で出土している。蔵骨器の蓋はなく2/5程が欠損し、土が詰まった状態になっていた。蔵骨器中の土を箒ったが、溶けてしまったのか明確に骨とわかるものは検出できなかった。同一個体と考えられる破片がM 0 3の覆土からも見つかっていることから、もともと別な場所にあったものが、ここに遺棄されたと考えられる。

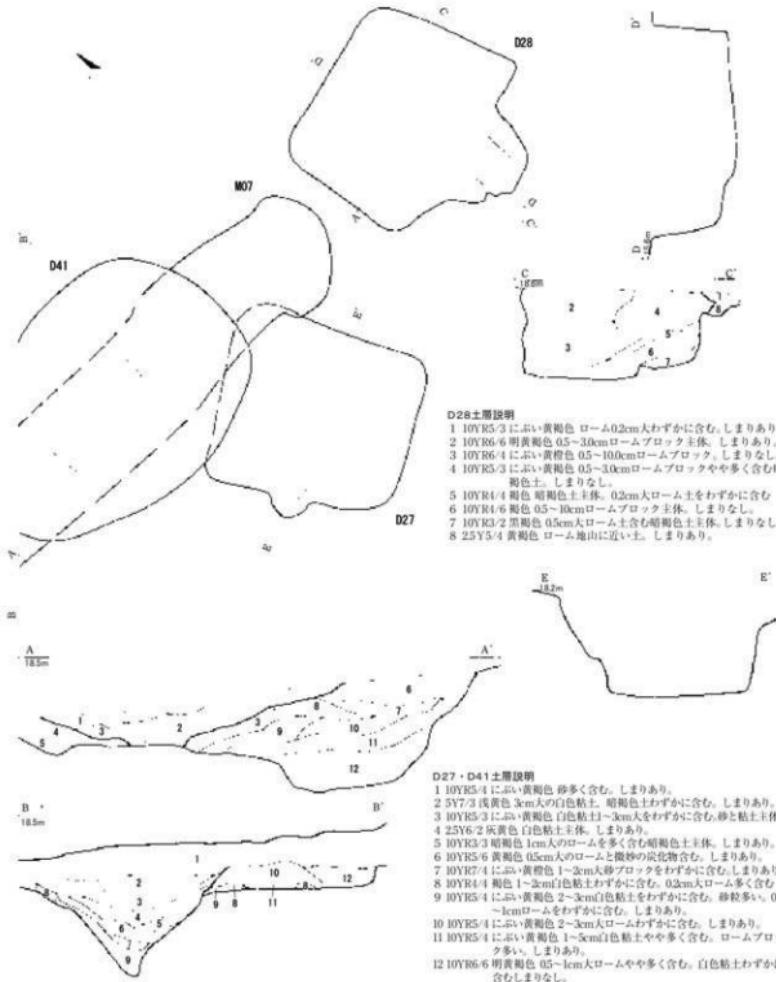
M 0 7

掘り込み区画北側に所在する溝でD 2 7を切り、D 4 3に切られる。西側は調査区外のため不明であるが、東端はD 2 8の西側まで伸びる。V字状の断面を呈し、上端幅2.3m、深さ1.9mを計測する。

覆土中からはかわらけや土器擂鉢などのはか、板碑片や置き砥石と考えられるものも出土している。他の遺構から鉄滓等が出土していることと併せ、製鉄や鉄製品の製作が行われていた可能性がある。

調査区中央掘り込み区画北側遺構観察表

遺構番号	位置	平面形態	主軸	断面形	長軸×短軸×深さ(m)	備考
D27	中央北	長方形	N-64°-E	箱形	2.5×22×1.3	南西壁の中央に縦坑の突出
D28	中央北	長方形	N-14°-W	箱形	2.5×20×1.1	南側壁の中央に縦坑の突出
D41	中央北	円柱	—	すり鉢状		蔵骨器出土
M07	中央北	—	N90°-E	V字状	5.5×23×1.9	

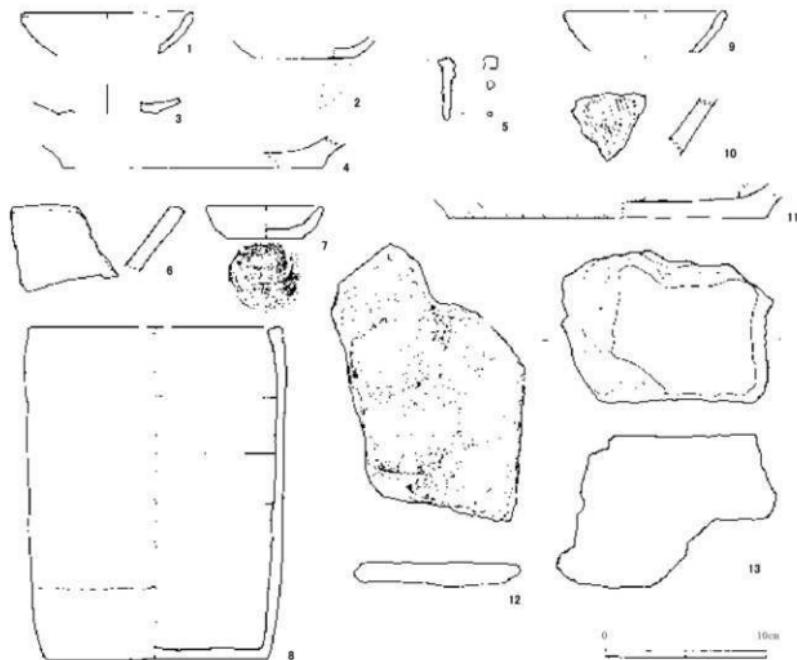


M-07 土層説明

- 1 10YRS/6 黄褐色 0.2m 大ロームを多く含む。しまりなし。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 0.2cm白色粘土・0.2~0.5cm ローム・炭化物微量含む。しまりなし。
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色 2cm 大の白色粘土・1~2cmローム粘土やや多く含む。しまりあり。
- 4 10YR4/4 黄褐色 0.2~1cm 大ローム・白色粘土わざかに含む。しまりあり。
- 5 10YR3/2 黄褐色 前期台地土土体。炭化物・焼土わずかに含む。しまりあり。
- 6 10YR4/4 黄褐色 0.2cm(白色粘土・炭化物・焼土)わざかに含む。しまりあり。
- 7 10YR4/4 黄褐色 砂多く 0.2cm 大白色粘土わざかに含む。しまりなし。

- 8 25Y/4 白色粘土粘土層。しまりあり。
- 9 10YR3/2 黄褐色 前期台地土土体に。ローム小ブロック・白色粘土わざかに含む。しまりあり。
- 10 10YR4/4 にぶい黄褐色 白色粘土・ローム小ブロック含む。しまりあり。
- 11 10YR5/4 にぶい黄褐色 2~3cm 大ロームわざかに含む。しまりあり。
- 12 10YR5/6 黄褐色 ローム小ブロック・0.2cm 大白色粘土わざかに含む。しまりあり。

第20図 D27・D28・D41・M07



第21図 D27・D41・M07出土遺物

D27・D41・M07出土遺物観察表

図版番号 出土遺構	器種等	部位	計測値(cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口徑	底径			
1 D27	土器 かわらけ	口縁～体部	2.6 (残存高)	— (10.8)	—	暗淡褐色	長石、石英 雲母	
2 D25	土器 カワラケ	底部	1.4 (残存高)	—	(6.0)	黃白色	石英、赤色、 黒色鉱物	
3 D27	陶器 皿か 甕	体部	1.2 (残存高)	—	—	緑色	白色、黒色 鉱物	
4 D27	土器 甕	底部	2.0 (残存高)	—	(16.1)	暗褐色	長石、石英	
5 D27	鉄製品 針		4.0 (最大長)	0.8 (最大幅)	0.8 (最大厚)			
6 D41	土器 土鍋	口縁部	—	—	—	淡黃褐色	長石、石英 赤色鉱物	
7 D41	土器 かわらけ	口縁～底部	2.0	7.2	4.7	黒色	長石、石英	底部糸切り後ヘラナデ
8 M07	陶器 藏骨器か 甕	口縁～底部	20.6	(15.8)	13.8	暗緑色		円筒形の陶器。絆筒の可能性あり。
9 M07	土器 かわらけ	口縁～体部	2.6 (残存高)	(10.0)	—	淡黃褐色	長石、石英 赤色鉱物	ロクロ成形
10 M07	土器 擂鉢	体部	—	—	—	暗褐色	長石、石英	
11 M07	土器 甕	底部	2.0 (残存高)	—	(19.6)	暗褐色	長石、石英	内面ハケ目状のナデ。よく焼き締ま っている。瓦質。
12 M07	石製品 板磚		15.6 (残存長)	11.0 (残存幅)	1.5 (最大厚)	青緑色	雲母片岩	
13 M07	石製品 砥石		13.0 (最大長)	9.4 (最大幅)	9.3 (最大厚)	黒～黒灰色		上下2面を平滑に加工している。平らな面 にはススが付着している。置き砥石か

西側高台遺構群

調査時点では土坑として遺構番号を付したものもあるが、柱の建替え等により柱穴が拡張され、土坑状になっていたためである。D42・D43・P101・P105を除き柱穴と考えられる。

遺構配置から、西側高台の中央付近を占める比較的大型のピット群（P41・P32・P47・P59・P73・P83・P40・D33・D34・D35・D36・D39）とその南側に位置するピット群（P43・P48～P52・P54～P58・P84～P86・P88・P105）とM06の西側に位置するピット群（P65～P71・P90～P100・P107）の大きく3つに分けられる。

ピットの覆土については、ほとんどが短期間で埋まった様子を示すこと、自然堆積では考えられない土層の逆転が時折みられることから、おそらく短期間に建替え等が行われたものと考えられる。

D42

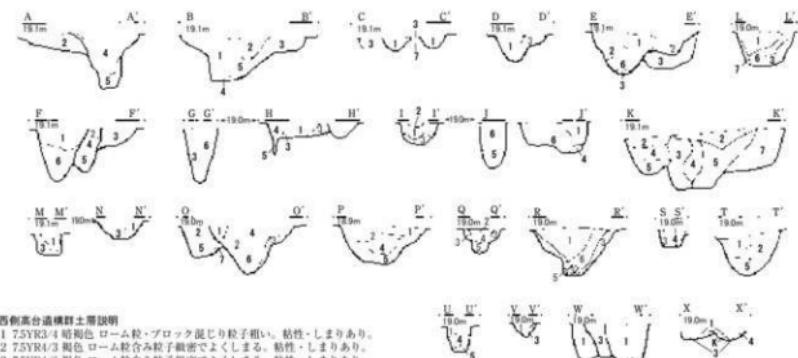
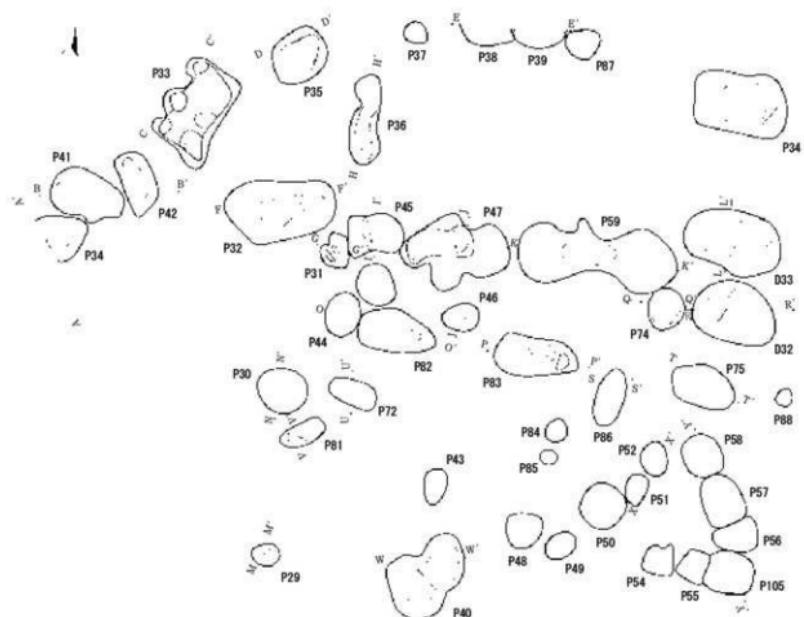
西側高台中央に位置する。白色粘土層を掘り込み床面とする。地下室は1.4m×1.0mの隅丸長方形で北側にスロープ状の縦坑を掘り、直接地下室へと降りる形状になっている。覆土からカワラケや土鍋片が出土している。

D43

M06を切って構築された直径1.2m程の土坑である。切り合ひ関係からD41とともに、今回の調査の中では一番新しい時期の遺構となる。覆土からは内耳土鍋と思われる土器片が出土している。

調査区西側高台遺構観察表（1）

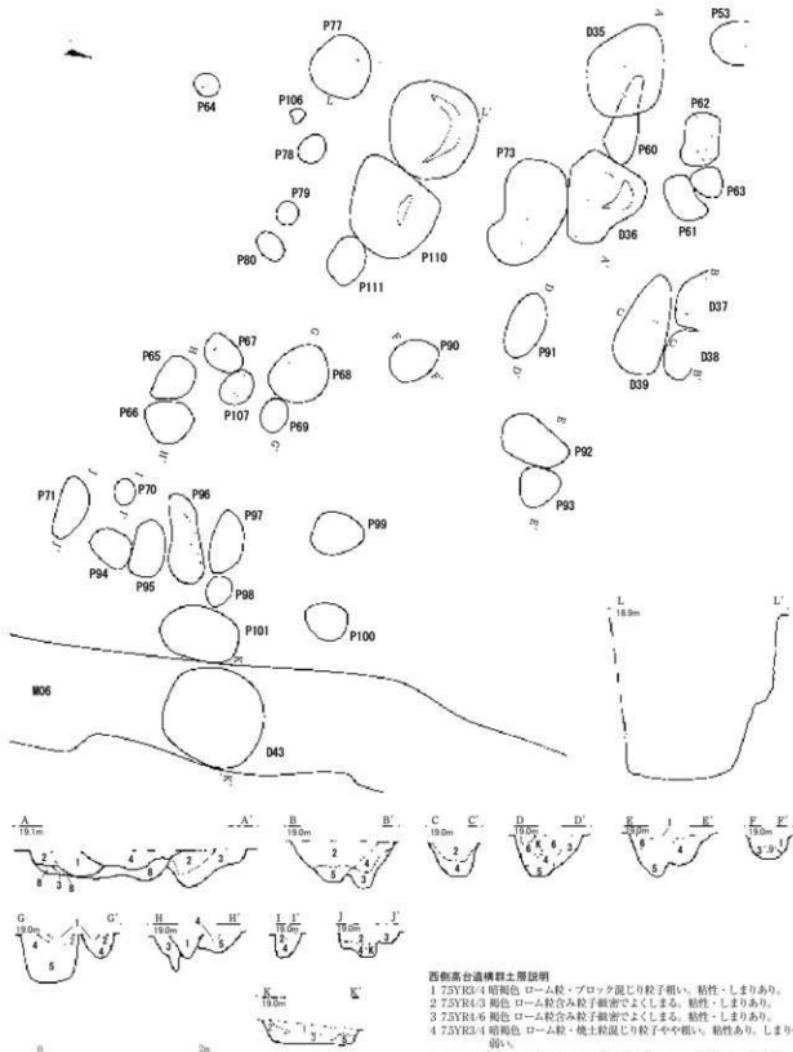
遺構番号	位置	平面形態	主軸	断面形	長軸×短軸×深さ(m)	備考
P29	西高台	楕円形	N-79°-E	柱状	3.4×3.0×0.57	
P30	西高台	楕円形	N-65°-W	皿状	0.63×0.54×0.2	
P31	西高台	不整円形	N-33°-E	柱状	4.0×3.0×0.67	
P32	西高台	楕円形	N-75°-E	柱状	1.4×0.8×0.7	柱穴2基の切り合ひ
P33	西高台	不整方形	N-23°-E	皿状	1.1×0.8×0.3	柱穴5基
P34	西高台	楕円食か	—	柱状	0.6×0.54×0.5	調査区外へ延びる
P35	西高台	楕円形	N-53°-E	柱状	0.7×0.6×0.4	
P36	西高台	楕円形	N-8°-W	柱状	1.12×3.8×0.36	両端に柱穴。2基分
P37	西高台	円形	—	柱状	0.3×0.26×0.4	
P38	西高台	—	—	柱状	0.6×0.23×0.5	調査区外へ延びる
P39	西高台	—	—	U字状か	0.62×0.22×0.32	調査区外へ延びる
P40	西高台	楕円形	N-33°-E	柱状	1.13×0.82×0.65	柱穴3基の切り合ひ
P41	西高台	楕円形	N-84°-E	柱状	0.94×0.6×0.6	柱穴2基の切り合ひか
P42	西高台	楕円形	N-41°-W	柱状	0.75×0.4×0.4	
P43	西高台	楕円形	N-5°-W	柱状	0.45×0.3×0.13	
P44	西高台	楕円形	N-2°-E	逆台形	0.54×0.43×0.4	
P45	西高台	楕円形	N-71°-E	U字状	0.67×0.52×0.3	
P46	西高台	楕円形	N-76°-E	柱状	0.47×0.34×0.68	
P47	西高台	不整円形	N-60°-E	U字状	1.35×0.96×0.65	柱穴3基
P48	西高台	円形	—	柱状	0.44×0.44×0.15	
P49	西高台	楕円形	N-50°-E	柱状	0.4×0.3×0.13	
P50	西高台	円形	—	皿状	0.53×0.53×0.13	
P51	西高台	楕円形	N-8°-E	皿状	0.4×0.26×0.1	
P52	西高台	楕円形	N-12°-W	皿状	0.43×0.3×0.16	
P54	西高台	不整円形	—	柱状	0.35×0.35×0.3	
P55	西高台	不整円形	—	皿状	0.4×0.36×0.18	
P56	西高台	楕円形	N-62°-E	柱状	0.55×0.4×0.3	



西側高台造構群土層説明

- 1 7SYR3/4 嫡褐色 ローム粒・ブロック混じり粒子粗い。粘性・しまりあり。
- 2 7SYR4/3 嫡褐色 ローム粒含み粒子緻密でよくしまる。粘性・しまりあり。
- 3 7SYR4/6 嫡褐色 ローム粒含み粒子緻密でよくしまる。粘性・しまりあり。
- 4 7SYR3/4 嫡褐色 ローム粒・焼土粒混じり粒子やや粗い。粘性あり。しまりやや弱い。
- 5 SYR4/4 嫡オーリーブ色 0.3~0.5cm程の焼土粒・ローム粒混じる。粒子粗い。粘性あり。しまり弱い。
- 6 2SYR3/3 嫡オーリーブ色 粒子やや粗く、細かい焼土粒・ローム粒混じる。粘性あり。しまり弱い。
- 7 10YR5/6 黄褐色 ハードローム層
- 8 10YR4/4 嫡褐色 ロームブロック含む暗褐色土。粘性・しまりあり。
- 9 7SYR4/3 嫡褐色 ロームブロック・炭化物含む
- 10 10YR4/6 嫡褐色 ローム含む暗褐色土。粘性強くしまりやや弱い。

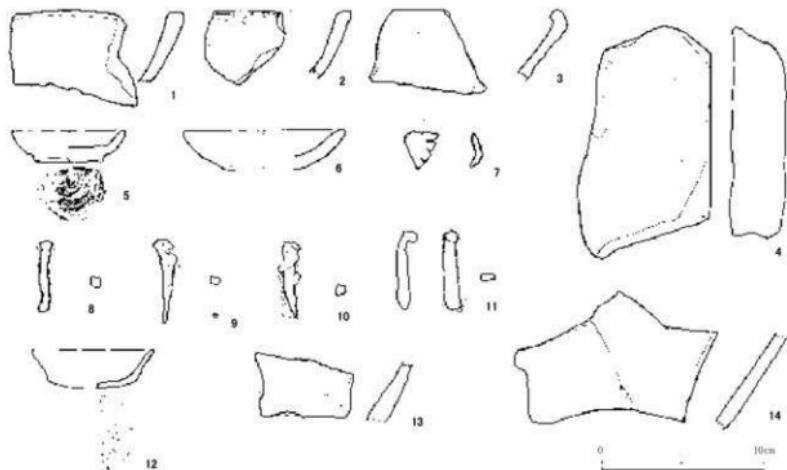
第22図 調査区西側高台造構群（西側）



西側高台遺構群土層説明

- 1 75YR4/4 喀褐色 ローム粒・ブロック混じり粒子細い。粘性・しまりあり。
- 2 75YR4/3 喀褐色 ローム粒含み粒子緻密でよくしまる。粘性・しまりあり。
- 3 75YR4/6 喀褐色 ローム粒含み粒子緻密でよくしまる。粘性・しまりあり。
- 4 75YR4/4 喀褐色 ローム粒・桃粒混じり粒子やや粗い。粘性あり。しまりやや弱い。
- 5 SYR4/4 喀褐色リープ色 0.3~0.5cm程の焼土粒・ローム粒混じる。粒子粗い。粘性あり。しまり弱い。
- 6 25YR3/3 黄褐色 ローム粒含む。
- 7 10YR4/3 黄褐色 土粒子やや粗く、細かい焼土粒・ローム粒混じる。粘性あり。しまり弱い。
- 8 10YR4/4 喀褐色 ロームブロック含む喀褐色土。粘性・しまりあり。
- 9 75YR4/3 喀褐色 ローム粒・ロームブロック・炭化物含む。
- 10 10YR4/6 喀褐色 ローム含む喀褐色土。粘性強くしまりやや弱い。

第23図 調査区西側高台遺構群（東側）



第24図 調査区西側高台遺構群出土遺物

西側高台遺構群出土遺物観察表

国版番号 出土遺物	器種等	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1 P47	土器 擂鉢	口縁部	—	—	—	外: 黒色 内: 黒褐色	長石, 石英	外面スス付着。
2 P36	土器 擂鉢	口縁部	—	—	—	外: 黒灰色 内: 灰色	長石, 石英	外面スス付着。
3 P59	陶器 擂鉢	口縁部	—	—	—	黒灰色	白色粘物	内外面ともスス付着。 瀬戸・美濃窯
4 P59	石製品 板牌	口縁~体部	—	—	—	緑青色	雲母片岩	
5 P66	土器 かわらけ	口縁~底部	1.9	(7.0)	4.2	淡橙色	長石, 石英 赤色粘物	底部糸切り
6 D35	土器 かわらけ	口縁~底部 (残存高)	2.4	-10	—	暗淡褐色	長石, 石英 雲母	
7 P91	鉄製品 不明		2.2 (最大長)	2 (最大幅)	0.3 (最大厚)			
8 P63	鉄製品 釘		4.4 (最大長)	0.8 (最大幅)	0.7 (最大厚)			
9 P63	鉄製品 釘		5.2 (最大長)	1 (最大幅)	0.5 (最大厚)			
10 P63	鉄製品 釘		4.6 (最大長)	0.8 (最大幅)	0.8 (最大厚)			
11 P63	鉄製品 不明		5 (最大長)	1 (最大幅)	0.4 (最大厚)			
12 D42	土器 かわらけ	口縁~底部 (残存高)	2.4 (7.6)	—	(5.5)	淡橙色	長石, 石英 黒色粘物	底部糸切り
13 D43	土器 土鍋	体部	—	—	—	外: 黒褐色 内: 淡橙色	長石, 石英	よく焼き縮まる。
14 D43	土器 内耳土鍋	体部	—	—	—	外: 黒色 内: 暗褐色	長石, 石英 雲母	外面スス付着。よく焼き縮まる。

調査区西側高台遺構観察表 (2)

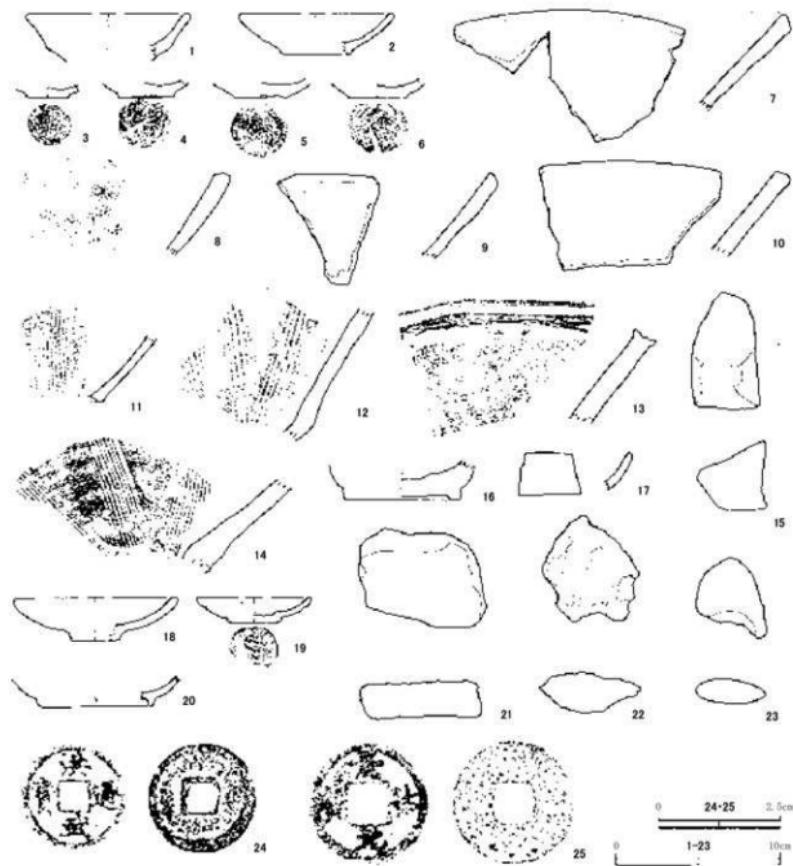
遺構番号	位置	平面形態	主軸	断面形	長軸×短軸×深さ(m)	備考
P57	西高台	梢円形	N-34°-W	柱状	0.65×0.5×0.2	
P58	西高台	梢円形	N-33°-W	箱形	0.54×0.47×0.25	
P59	西高台	瓢箪型	N-85°-E	柱状か	2.0×0.8×0.6	柱穴2基の切り合いか。
P72	西高台	梢円形	N-79°-W	柱状	0.6×0.3×0.3	
P74	西高台	梢円形	N-3°-E	柱状	0.53×0.44×0.3	
P75	西高台	梢円形	N-28°-E	柱状	0.81×0.5×0.5	
P81	西高台	梢円形	N-58°-E	皿状	0.58×0.27×0.16	

調査区西側高台造構観察表（3）

造構番号	位置	平面形態	主軸	断面形	長軸×短軸×深さ(m)	備考
P82	西高台	楕円形	N-84°-W	柱状	0.97×0.53×0.55	
P83	西高台	楕円形	N-70°-W	皿状	1.04×0.5×0.6	
P84	西高台	円形	N-15°-E	柱状	0.3×0.26×0.45	
P85	西高台	楕円形	N-60°-E	柱状	0.2×0.18×0.1	
P86	西高台	楕円形	N-3°-E	柱状	0.7×0.34×0.35	
P87	西高台	不整円形	N-23°-W	皿状	4.3×3.8×0.13	
P88	西高台	不整円形	N-38°-W	柱状	0.2×0.2×0.7	
P103	西高台	楕円形	N-22°-W	柱状	0.52×0.46×0.35	
P105	西高台	楕円形	N-2°-E	箱形	0.6×0.52×0.15	
D32	西高台	楕円形	N-88°-E	柱状	1.06×0.75×0.54	柱穴
D33	西高台	楕円形	N-64°-E	柱状	1.22×0.78×0.65	柱穴
D34	西高台	楕円形	N-16°-W	柱状	1.14×0.7×0.7	柱穴
P53	西高台	楕円形	—	皿状	0.54×0.44×0.26	調査区外へ延びる
P60	西高台	楕円形	N-82°-E	皿状	1.1×0.38×0.4	
P61	西高台	楕円形	N-33°-E	柱状	0.6×0.36×0.4	
P62	西高台	楕円形	N-68°-E	柱状	0.64×0.42×0.35	柱穴 3 基
P63	西高台	楕円形	N-28°-E	柱状	0.42×0.36×0.7	
P64	西高台	円形	N-61°-W	柱状	0.32×0.29×0.3	
P65	西高台	楕円形	N-78°-W	柱状	0.62×0.44×0.43	柱穴 2 基切り合ひ
P66	西高台	楕円形	N-15°-W	皿状	0.61×0.5×0.18	
P67	西高台	楕円形	N-17°-W	柱状	0.54×0.38×0.52	
P68	西高台	楕円形	N-41°-W	箱形	0.75×0.65×0.7	
P69	西高台	楕円形	N-80°-E	柱状	0.43×0.33×0.35	
P70	西高台	楕円形	N-72°-E	柱状	0.32×0.25×0.2	
P71	西高台	楕円形	N-87°-W	柱状か	0.8×0.37×0.3	
P73	西高台	楕円形	N-81°-W	柱状	1.36×0.8×0.55	柱穴 2 基
P77	西高台	不整円形	N-64°-W	柱状	0.76×0.75×0.6	
P78	西高台	楕円形	N-45°-W	柱状	0.38×0.31×0.3	
P79	西高台	円形	N-10°-W	柱状	0.29×0.27×0.23	
P80	西高台	楕円形	N-23°-E	柱状	0.4×0.28×0.4	
P90	西高台	楕円形	N-46°-W	柱状	0.63×0.49×0.3	
P91	西高台	楕円形	N-88°-E	柱状	0.82×0.45×0.5	
P92	西高台	楕円形	N-7-E	柱状	0.88×0.55×0.5	
P93	西高台	不整円形	N-17°-E	柱状	0.54×0.48×0.4	
P94	西高台	楕円形	N-1°-E	皿状	0.54×0.4×0.2	
P95	西高台	楕円形	N-76°-E	柱状	0.7×0.4×0.45	
P96	西高台	楕円形	N-58°-E	柱状	1.12×0.42×0.6	
P97	西高台	楕円形	N-77°-E	皿状	0.79×0.4×0.2	
P98	西高台	楕円形	N-14°-E	柱状	0.39×0.3×0.3	
P99	西高台	楕円形	N-52°-E	皿状	0.65×0.54×0.15	
P100	西高台	楕円形	N-2°-E	柱状	0.54×0.45×0.35	
P101	西高台	楕円形	N-10°-W	皿状	0.98×0.64×0.26	土坑
P106	西高台	不整円形	N-84°-E	柱状	0.2×0.19×0.3	
P107	西高台	楕円形	N-65°-W	柱状	0.47×0.36×0.5	
P110	西高台	不整円形	N-6°-E	柱状	1.1×10×0.6	
P111	西高台	楕円形	N-81°-E	柱状	0.6×0.46×0.35	
D35	西高台	楕円形	N-79°-E	皿状	1.24×0.97×0.4	
D36	西高台	不整円形	N-12°-E	柱状	1.1×0.98×0.6	柱穴 2 基
D37	西高台	楕円形	N-3°-W	柱状	0.76×0.31×0.6	調査区外へ延びる
D38	西高台	楕円形	N-82°-E	柱状	0.62×0.36×0.6	
D39	西高台	楕円形	N-85°-E	柱状	1.25×0.6×0.57	
D42	西高台	隅丸長方形	N-14°-W	—	1.4×10×2.0	地下式坑
D43	西高台	円計	—	箱形	1.2×1.2×0.3	

遺構外遺物

確認面上から多くの遺物が出土している。第25図中1~15・25については東側の高台上からの出土。16~17は東側高台沿いのM 0 3周辺。18~20はM 0 4・D 2 9周辺。21~23は西側高台上である。24の銭貨はD 2 8付近からの出土である。



第25図 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物観察表

国版番号 出土遺構	器種等	部位	計測値(cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土器 かわらけ	口縁～体部	3.0 (残存高)	(10.3)	—	暗淡褐色	長石、石英	ロクロ成形後ヘラナデ
2	土器 かわらけ	口縁～底部	2.6	(9.6)	(4.2)	暗褐色	長石、石英	ロクロ成形
3	土器 かわらけ	底部	0.8 (残存高)	—	2.7	暗淡褐色	長石、石英、雲母	底部回転糸切り
4	土器 かわらけ	底部	1.0 (残存高)	—	3.5	暗淡褐色	長石、石英	底部回転糸切り
5	土器 かわらけ	底部	1.2 (残存高)	—	3.4	暗淡褐色	長石、石英、赤色鉱物	底部回転糸切り
6	土器 かわらけ	底部	1.1 (残存高)	—	3.6	暗淡褐色	長石、石英	底部回転糸切り
7	土器 内耳土鍋	口縁部	—	—	—	黒褐色	長石、石英 赤色鉱物	外面ともヘラナデ。外 面スス付着
8	土器 擂鉢	口縁部	—	—	—	外：淡橙色 内：オリーブ灰	長石、石英 赤色鉱物	8条の摺り目。よく焼き 締まっている。
9	土器 内耳土鍋	口縁部	—	—	—	外：黒色 内：暗褐色	長石、石英	ヘラナデ。外面スス付着。
10	土器 内耳土鍋	口縁部	—	—	—	黒褐色	長石、石英 雲母か?	外面スス付着
11	土器 擂鉢	体部～底部	—	—	—	外：黒褐色 内：淡橙褐色	長石、石英	摺り目11条 外面スス 付着
12	土器 擂鉢	体部～底部	—	—	—	外：橙褐色 内：黒褐色	長石、石英 小隕含む	摺り目5条
13	陶器 擂鉢か	口縁部	—	—	—	淡暗褐色	白色、赤色、 黒色鉱物	表面ヘラナデ調整。口縁 部とその周辺一部に自然 釉か。常滑窯産か
14	陶器 擂鉢	体部～底部	—	—	—	黒色	長石、白色鉱物 黄白色の胎土	摺り目8条1単位。内 外面ともにスス付着 灘P1・美濃窯
15	石製品 砥石		7.3 (最大長)	4.2 (最大幅)	4.2 (最大厚)	黄白色		
16	陶器 盃か	底部	1.4 (残存高)	—	7.2	緑色	白色鉱物	
17	陶器 碗	口縁部	—	—	—	淡緑色	黒色鉱物	口縁部がわずかに外反す る。
18	土器 かわらけ	口縁～底部	2.7	(10.2)	(3.0)	暗褐色	長石、石英 赤色鉱物	内外面ともナデ調整。底 部糸切り
19	土器 かわらけ	口縁～底部	1.6	(7.2)	(3.2)	淡暗褐色	長石、石英 赤色鉱物	棒状工具ナデ。底部糸 切り
20	磁器 皿	底部	1.7 (残存高)	—	(7.0)	青白色	白色・赤色・黒色 鉱物	
21	石製品 板碑		7.4 (最大長)	5.8 (最大幅)	2.2 (最大厚)	緑灰色	雲母片岩	
22	鉄津		6.4 (最大長)	6.0 (最大幅)	2.4 (最大厚)			碗型津。重量 120g
23	石製品 砥石		6.0 (最大長)	4.3 (最大幅)	1.4 (最大厚)	黒灰色	白色鉱物混じる	
24	銭貨		0.2 (最大厚)	2.2 (直径)	0.5 (鍾)			洪武通宝
25	銭貨		0.1 (最大厚)	2.5 (直径)	0.8 (鍾)			景德元宝か

第3章 成果と課題

今回の調査により、中世・戦国期の土塁3基、溝9条、火葬墓2基、土坑墓11基、地下式坑12基、堅穴状遺構2基、土坑10基、ピット124基、屋外炉1基、また台地整形3か所を検出した。これまで縄文時代、奈良・平安時代の包蔵地として認識されてきたが、中世の遺跡としての性格が明らかになった。確実に遺構に伴うと考えられる遺物が少ないため、遺構の切り合い等からの判断になるが、火葬墓と考えられるD 0 6を地下式坑D 0 8が切り、台地整形により地下式坑が削られていることから①谷沿いの台地平坦面～緩斜面を墓域として利用していた時期 ②地下式坑等により物資の貯蔵場所として利用されていた時期 ③調査区中央一帯を1.5mほど掘り込み、土塁と溝により区画し利用していた時期の3時期に捉えることが出来る。調査区西側の高台部分についても、T 5の土層観察から、ハードローム上部まで自然堆積がなく、土塁部分だけソフトローム層を掘り残していることから、調査区西側の高台部分については一度ハードローム上面まで掘り下げていること。掘り下げたであろうハードローム上から遺構が確認されていることから、③の時期以降に成立したと考えられる。また、地下式坑については形態や入口の向きなどから、構築・使用の時期に差があるものと考えられる。

今回検出された火葬施設D 6・D 1 8について、炭化物が厚く堆積し、壁面が赤変硬化していた。炭化物の堆積中に骨片が混じっている状況と、他の土坑墓より出土した人骨に火を受けたものがあること、焼土・炭化物・人骨の混じる土の堆積を見せる遺構もあることから、火葬墓ではなく火葬施設として機能し、火葬後人骨を別な土坑に埋葬していたと考えられる。D 6は切られているが、残された特徴からD 1 8と同じような形状であったと推測される。このような火葬施設は、近隣では作山遺跡や道地遺跡でも見つかっている。

土坑墓については、人骨が出土していないものについても、覆土や形状から判断して、東側高台上の土坑については、ほとんどが土坑墓であると考えられる。

人骨についてはD 0 5・D 0 6・D 1 8・D 2 1・D 2 3から出土している。D 0 5は遺構床面に下顎骨の形状どおりに歯牙が並んで出土した。下顎骨自体は溶けてなくなっており、歯牙も一部のみで、歯牙のはかは頭蓋骨の一部と考えられる骨片が覆土中から見つかっている。D 2 3については炭化物に混じって骨片が出土している。今回の調査で最も状態が良い出土状況のD 2 1であるが、体部の骨は確認できず、頭蓋骨の一部（上顎骨・下顎骨・前頭骨・頸骨・側頭骨か・歯牙）が出土している。上顎骨・下顎骨は比較的の残りが良く、歯については骨に付着した状態で全て揃って出土している。出土後の処置として、無水エタノールを使用して表面の洗浄を行い、アセトンを溶媒とした5%程度のパラロイドB-72溶液を、濃度を上げながら数回に渡り塗布した。

また、1点のみであるが藏骨器と思われる陶器が出土している。形状は円筒形をしており、経筒の外容器可能性もある。蓋はなく半分に割れ、中に土が入り込み横倒しの状態で出土している。中の土についても箇をかけたが遺物等を見つけることはできなかった。同一個体と考えられる破片がM 0 3から見つかっている。新しいものの可能性もあるが、もともと別な位置に埋葬されたものが、その後の台地整形などにより見つかったため、適当な場所を掘り、遺棄した可能性も考えられる。

板碑の破片も複数見つかっているが、刻まれている内容がわかるものはなく、D 0 3の覆土中から出土したものに種字の一部が見られるのみである。今回調査した神久保地区は、応永四年（1397）に鎌倉公方足利氏満が法華経寺領として安堵している村々の一つであることから、出土した板碑片が墓域として利用

していた時期に伴うものであれば、種字の刻まれた板碑があることから考えて、法華經寺領となる以前、14世紀代以前の墓域の可能性もある。

地下式坑について、独立した竪坑を持つ可能性があるのはD 2 6のみで、他は地下室の壁の一方を傾斜をつけて掘削し、直接地下室へと降りる構造の地下式坑である。その中でさらに竪坑部分が地下室から突出するD 2 7、D 2 8のようなタイプのものや、地下室の平面形態として長方形・方形・隅丸方形、また、D 0 9の様に床面をさらに一段掘り下げるものなど、バリエーションが見られる。

掘り込み区画については凡そ東西30m、南北25mの長方形の区画の北東隅を、東西約8m、南北約5m突出させている。舌状台地の基部に近い立地と、長方形の大規模な掘り込みから、市内では米本城跡と地点で見つかっている堀込型屋敷の可能性はあるが、この区画の大半が保存区域と調査範囲外のため、その性格を明らかにすることはできなかった。しかし、調査区西側の高台区画についても一度一帯を掘り下げた痕跡があり、そこに建物跡と考えられるピット群が存在していること、今回調査区外ではあるが、中央の掘り込み区画の北側も、調査区東側の高台に続く人工的と考えられる平坦面や土壘と思われる高まりが所在することなどから、屋敷群のような場所であった可能性もある。

遺物については、15世紀～16世紀代のものが中心で、一部14世紀代まで遡る可能性のあるものや、近世の磁器等が混じる。かわらけや内耳土鍋・土器擂鉢等の土器類を中心に、瀬戸・美濃窯と考えられる擂鉢や皿等の陶器が出土しており、ここが生活の場として使われていた時期があることを示している。遺物の中には輸入磁器等も少数ながら含まれることから、土豪層等、在地の有力者の存在も伺える。

本遺跡から谷津を挟んだ北西、神久保寺台遺跡では、城跡の存在を窺わせる大規模な堀跡や土壘等が見つかっている。神久保寺台遺跡は神崎川から南西方向に延びる谷が、さらに小支谷に分岐する場所に張り出しますように立地する。現状で調査された範囲は限られており、全容は定かではないが、八千代市内でいえば吉橋城跡と尾崎館跡のように、戦闘用の城砦としての神久保寺台遺跡と、生活の場である館としての椿山遺跡という位置づけを考えることができるのではないだろうか。

参考文献

- 八千代市教育委員会（1976年）『八千代市中世城館址調査報告』
八千代市史編さん委員会（1991年）『八千代市の歴史』資料編 原始・古代・中世
（財）千葉県文化財センター（1998年）『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書1 一八千代市島田込ノ内遺跡一』
八千代市教育委員会（2002年）『千葉県八千代市不特定遺跡発掘調査報告書1』
八千代市教育委員会（2003年）『千葉県八千代市作山遺跡発掘調査報告書』
（財）千葉県文化財センター（2004年）『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書2 一八千代市間見穴遺跡一』
（財）千葉県文化財センター（2004年）『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書3 一八千代市道地遺跡一』
愛知県史編さん委員会（2007年）『愛知県史』別編 烹業2
八千代市史編さん委員会（2008年）『八千代市の歴史』通史編 上
八千代市教育委員会（2010年）『千葉県八千代市作山遺d地点発掘調査報告書』
八千代市教育委員会（2011年）『千葉県八千代市作山塚群1号塚・2号塚』
八千代市教育委員会（2017年）『千葉県八千代市作山塚群3号塚・4号塚』
八千代市教育委員会（2018年）『千葉県八千代市神久保寺台遺跡c地点』
（有）原始文化研究所（2022）『千葉県八千代市島田込の内遺跡-d・e地点発掘調査報告書一』
八千代市教育委員会（2023年）『千葉県八千代市米本城跡c地点』

写 真 図 版

図版1



調査区遠景（北から）



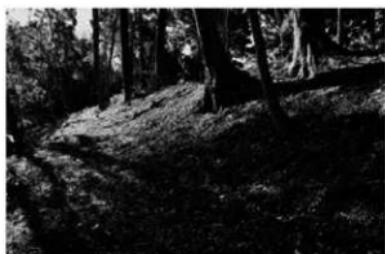
調査区全景（南東から）



SAO1 調査前状況（南東から）



SAO1 調査前状況（北から）



大走り状遺構現況（北から）



T1 全景（東から）



T1 内土壌土層断面



T1 内M01 全景（南東から）



T 2 全景 (南東から)



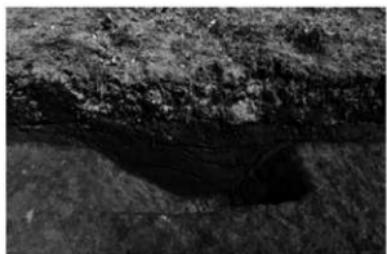
T 2 内土墨土層断面 (南東から)



T 2 内M 0 1 全景 (南東から)



T 3 土層断面 (南東から)



T 3 内M 0 1 土層断面 (南から)



T 4 全景 (北から)



T 4 内土墨土層断面 (北西から)



土墨調査終了全景 (南東から)

図版3



調査区全景（東から）



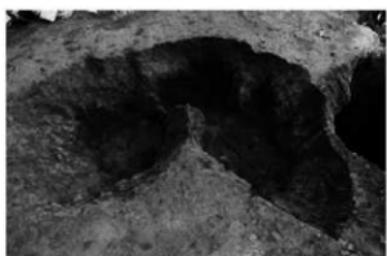
T 5 全景（南西から）



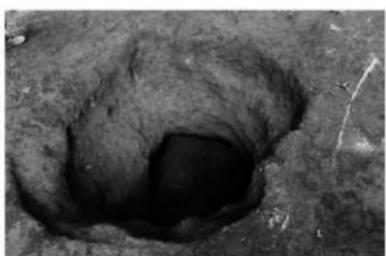
T 5 内土墨土層断面



D 0 1 全景（西から）



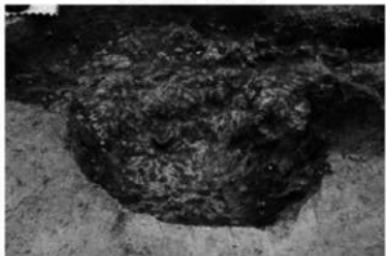
D 0 2・D 0 8 全景（北西から）



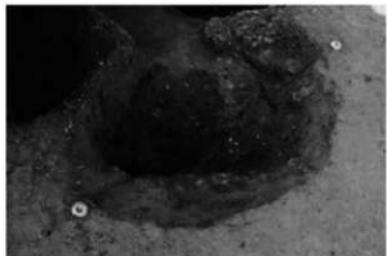
D 0 3 全景（西から）



D 0 4・D 0 5 土層断面



D 0 5 全景（西から）



D 06 炭化物等堆積状況（南東から）



D 06 全景（西から）



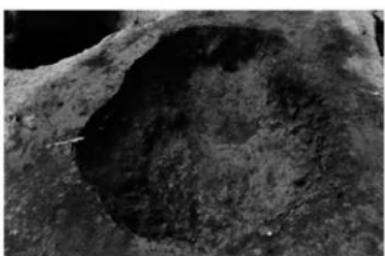
D 07 全景（北西から）



D 08 全景（北西から）



D 09 全景（南から）



D 10 全景（東から）



D 14 全景（南西から）

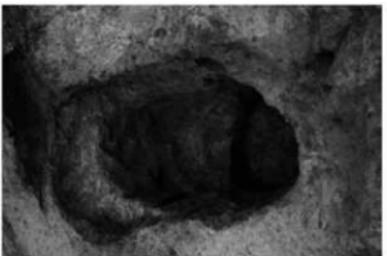


D 11・D 23 全景（西から）

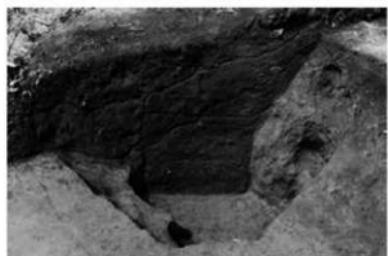
図版5



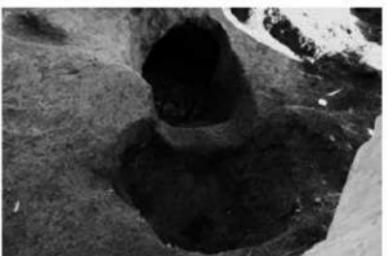
D 2 0 全景（西から）



D 2 2 全景（南東から）



D 2 5 全景（南から）



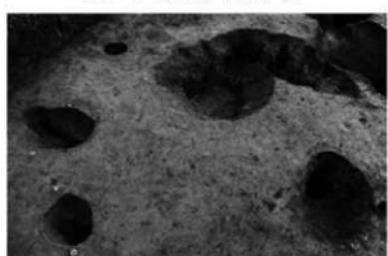
D 2 6 全景（西から）



P 1 ~ P 1 2 全景（南西から）



D 2 6 遺物出土状況（北から）



P 2 2 ・ P 2 3 ・ P 2 8 全景（北から）



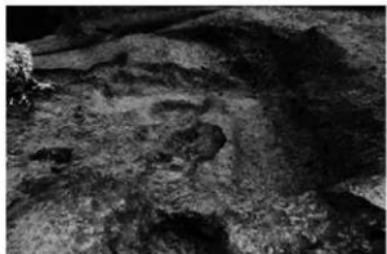
M 0 1 全景（北から）



D15・D16 挖削状況（西から）



D15・D16 挖削状況（南から）



D15・D16・M08 全景（南から）



M03 完掘状況（東から）



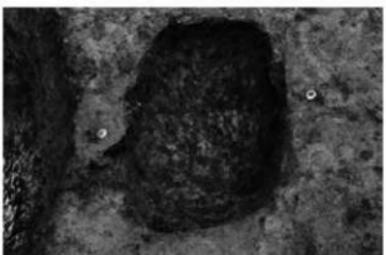
M02 全景（南から）



M03 土層断面（南から）

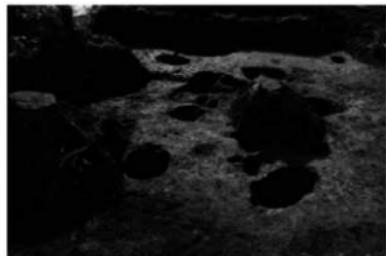


D19・D45 全景（北から）

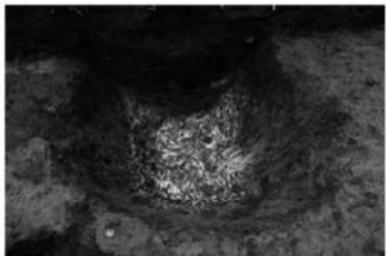


D44 全景（南東から）

図版 7



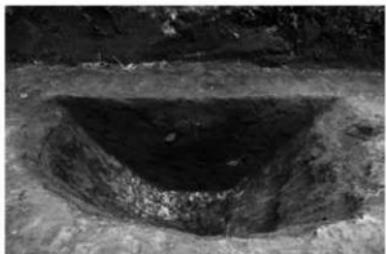
P 13 ~ P 21 全景（北東から）



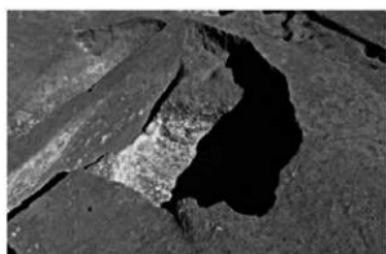
D 24 全景（東から）



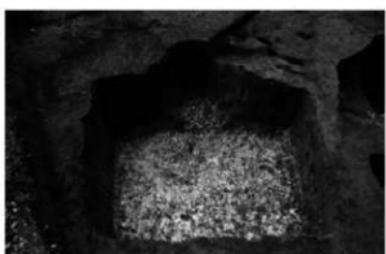
D 27 + D 41 土層断面



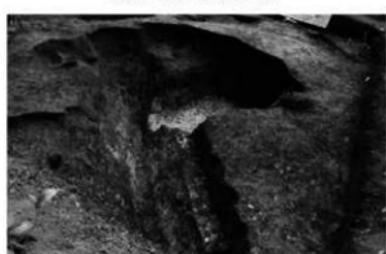
D 24 土層断面（東から）



D 27 全景（南西から）



D 28 全景（北から）



M 07 全景（西から）



調査区中央掘り込み区画北側全景



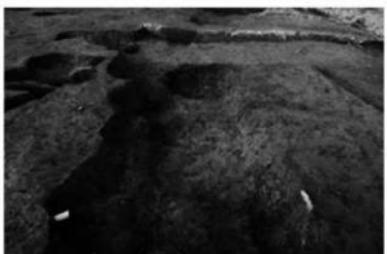
調査区西側高台遺構群全景（西から）



調査区西側高台遺構群全景（東から）



調査区西側高台基本層序



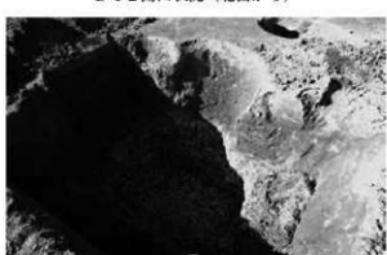
M06 全景（南から）



D42 開口状況（北西から）



D42 土層断面（北から）

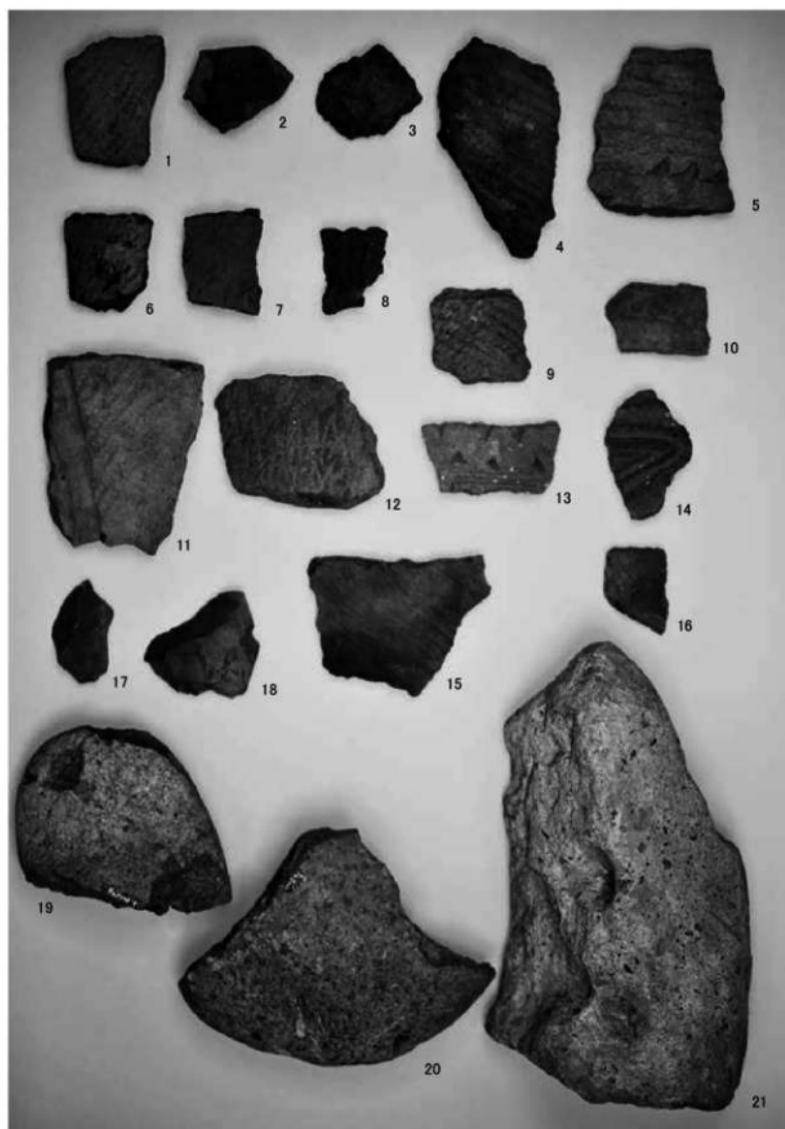


D42 全景（南東から）

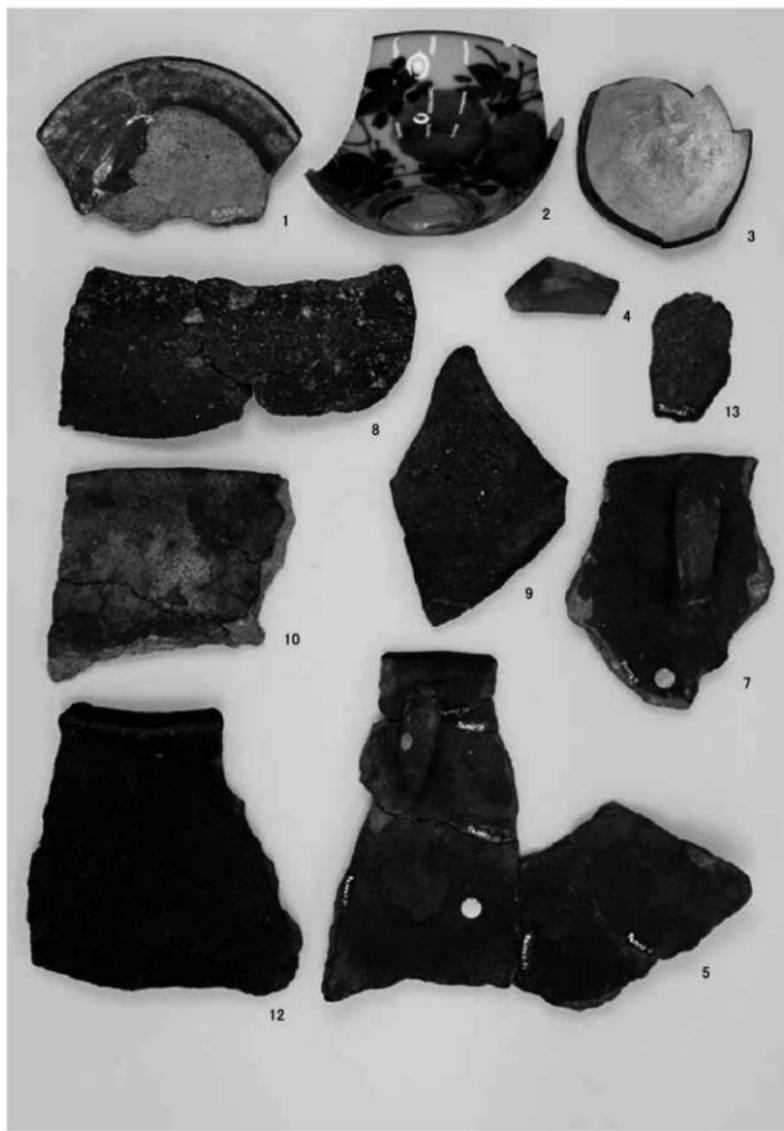


大型ピット群全景（北西から）

図版9



中世以前出土遺物

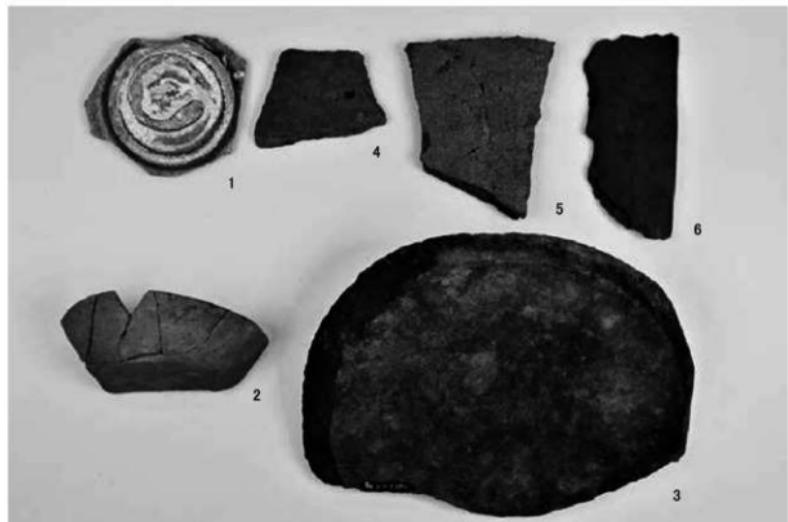


M03出土遺物（1）

図版11



M03出土遺物（2）



トレンチ内及びM01出土遺物



M04出土遺物



P17出土遺物



D01・D03・D08～D10出土遺物（1）

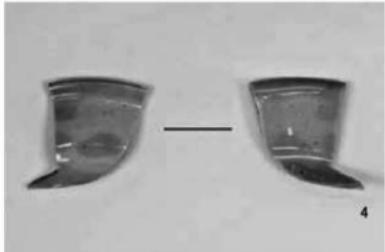


D01・D03・D08～D10出土遺物（2）

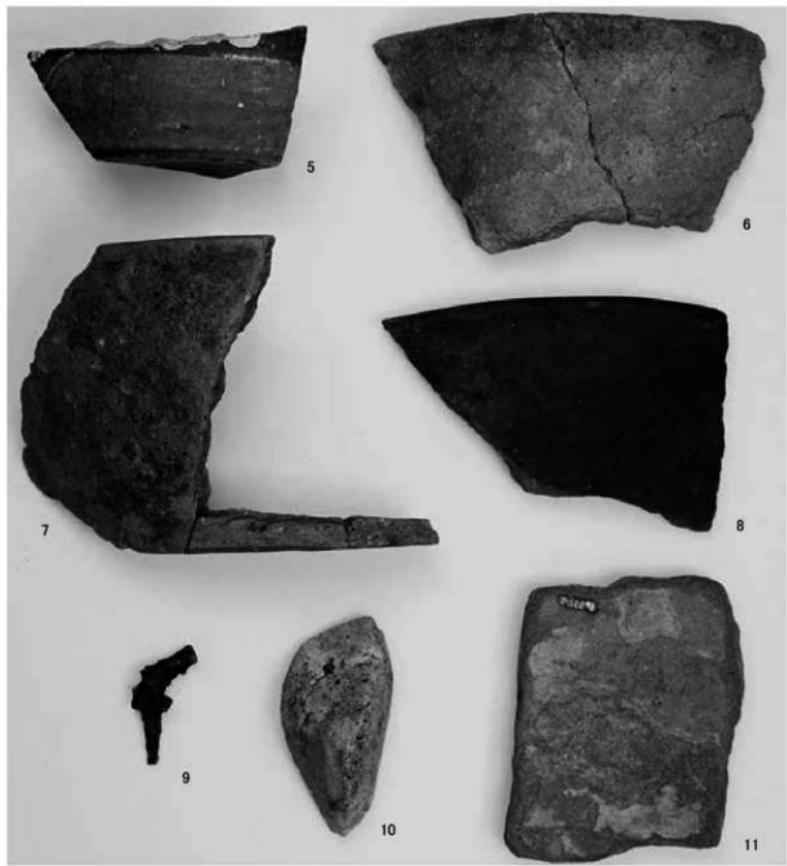
圖版13



D 1 4出土遺物



D 2 1出土遺物



D 2 5出土遺物

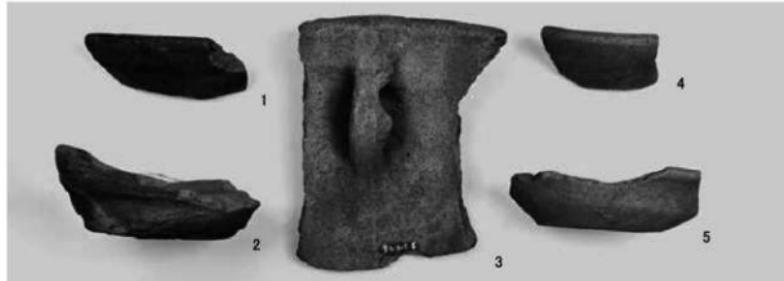


D 2 6 出土遺物

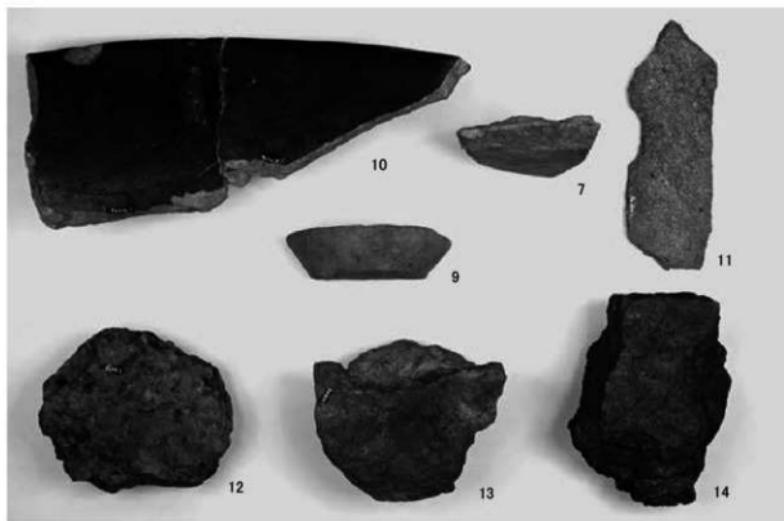


D 2 9 出土遺物

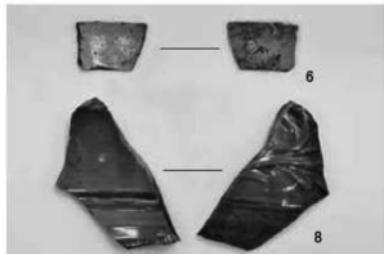
圖版15



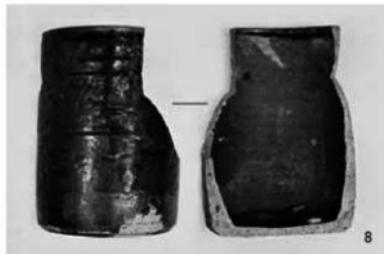
D 15 · D 19 出土遺物



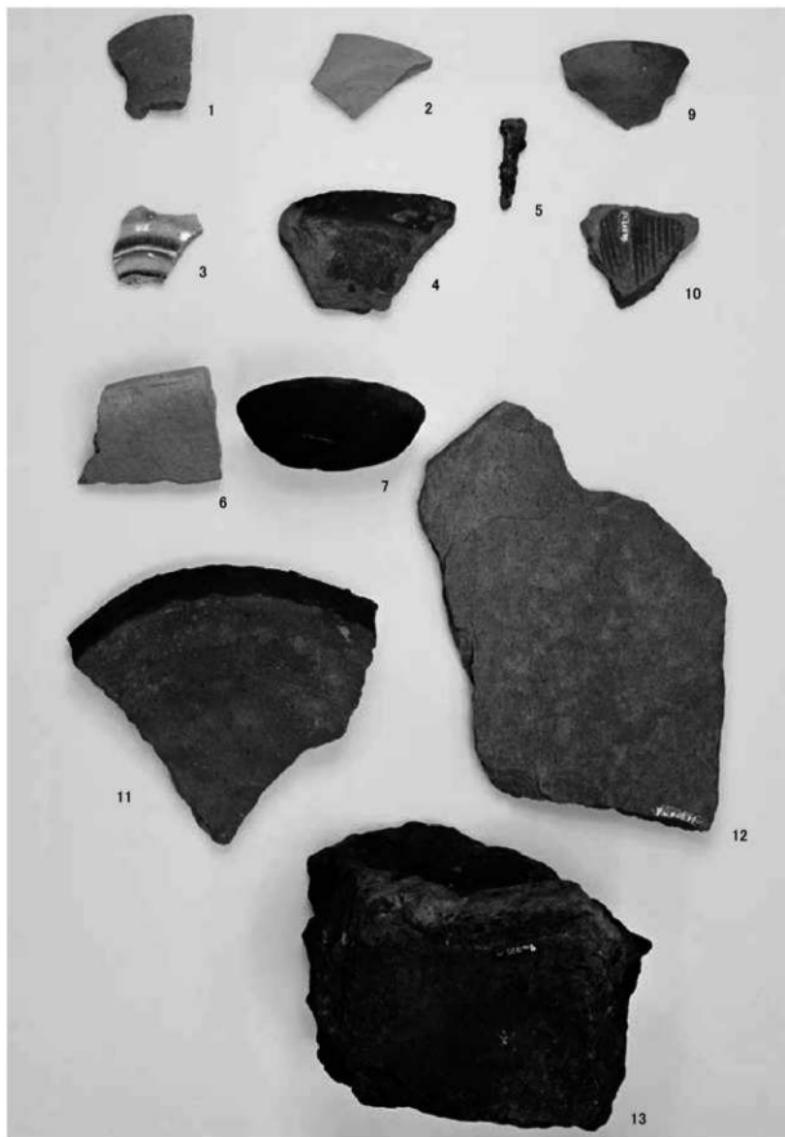
D 15 · D 19 出土遺物 (1)



D 15 · D 19 出土遺物 (2)

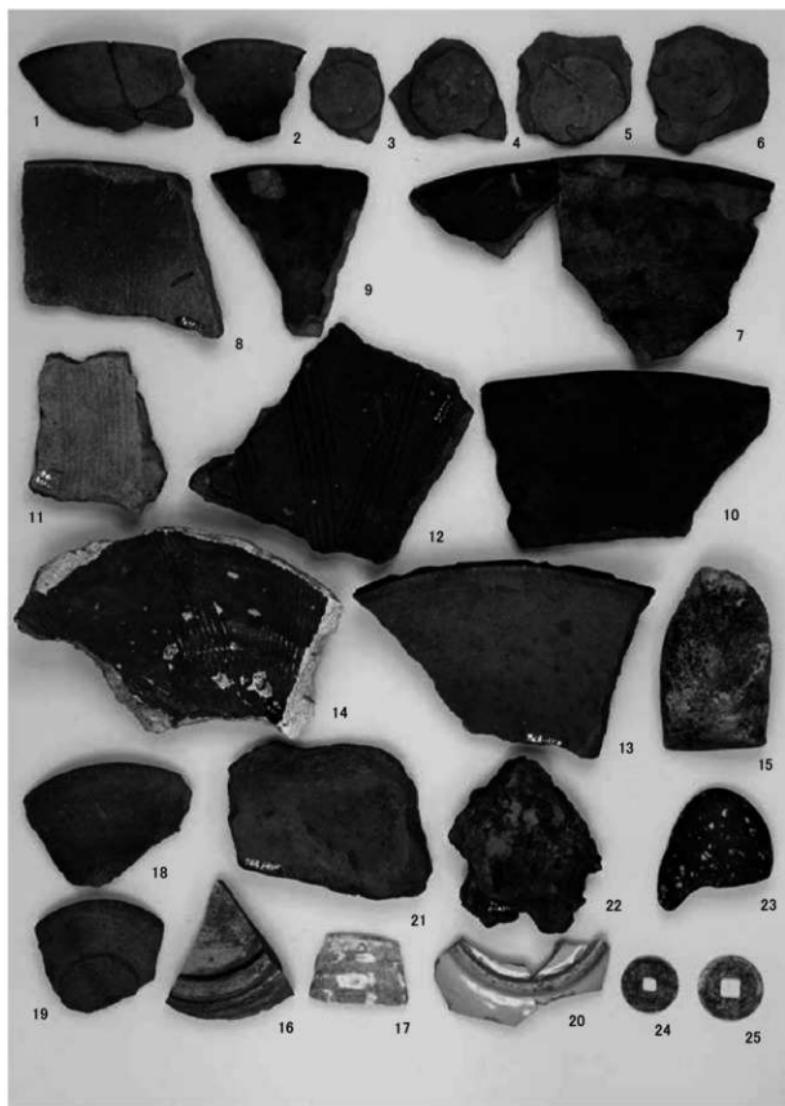


D 15 · D 19 出土遺物

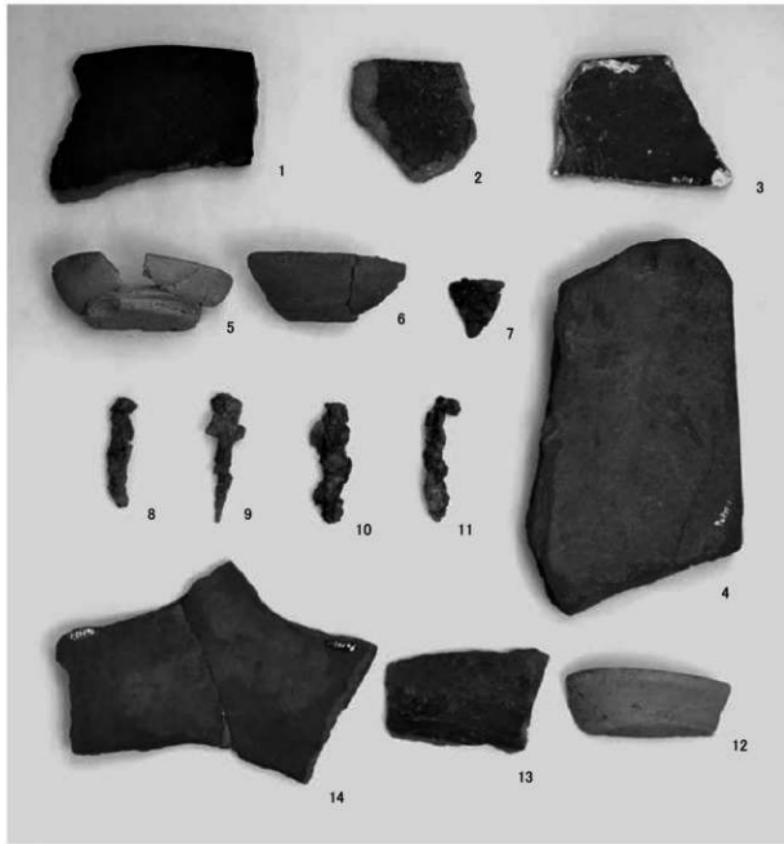


D 27 · D 41 · M 07 出土遺物

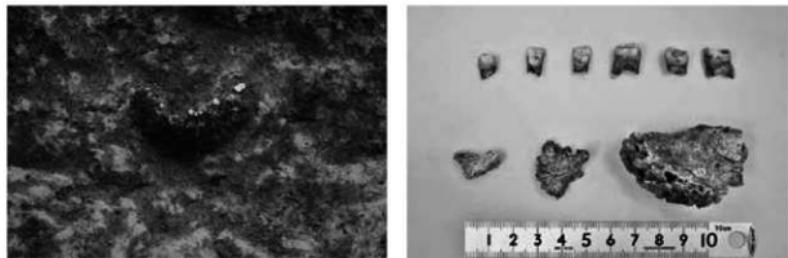
図版17



遺構外出土遺物



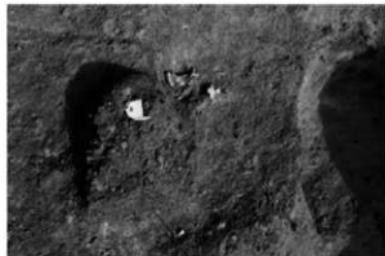
調査区西側高台遺構群出土遺物



D05出土歯牙出土状況

D05出土歯牙

圖版19



D 2 1 白磁出土状況



D 2 1 人骨出土状況



D 2 1 出土人骨片



D 2 1 出土人骨（左から前頭骨・上顎骨・下顎骨）

報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし つばきやまいせきえーちでん							
書名	千葉県八千代市 椿山遺跡a 地点							
副書名	物流倉庫建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	宮下聰史							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和H138番地2 TEL 047(483)1151代表							
発行年月日	令和5年9月29日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	道路 番号	北緯	東経	調査期間	調査面積m ²	
椿山遺跡	神久保136-11ほか	12221	9	35度 46分 92秒	140度 5分 41秒	第1次 20220413 ～ 20220421 第2次 20220801 ～ 20221031	1900	倉庫
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
椿山遺跡	包蔵地	縄文、奈良・平安、中・近世	中世土塁、溝、火葬施設、土坑墓、地下式坑、土坑、ピット、台地整形区画	縄文土器、弥生土器、中近世土器、陶磁器、中国産磁器、砥石、鉄滓、板碑				
要約	調査において、中世の土塁3基、溝9条、台地整形区画3か所、地下式坑12基、火葬施設2基、土坑墓11基、ピット124基、土坑10基、堅穴状遺構2基、屋外炉1基を検出した。遺構の切り合い等から、墓域としての利用から生活の場へと、土地の利用方法が変化していることが見て取れる。また、土塁や溝を伴う大規模な台地整形を行っていることや、少數ながら輸入磁器なども出土していることから、土豪層等、在地有力者の存在が窺える遺跡である。谷を挟んで所在する神久保寺台遺跡で大規模な痕跡が見つかっていることから、戦闘用の城（神久保寺台遺跡）と、生活のための館（椿山遺跡）のような関係が推測される。							

千葉県八千代市 椿山遺跡 a 地点
—物流倉庫建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発 行 日 令和5年9月29日

編 集 八千代市教育委員会 文化・スポーツ課
〒276-0045 八千代市大和田138-2
TEL 047-481-0304

発 行 豊田 はる
D H L e コマースジャパン株式会社

印 刷 金子印刷企画
千葉県八千代市壹田410-1
